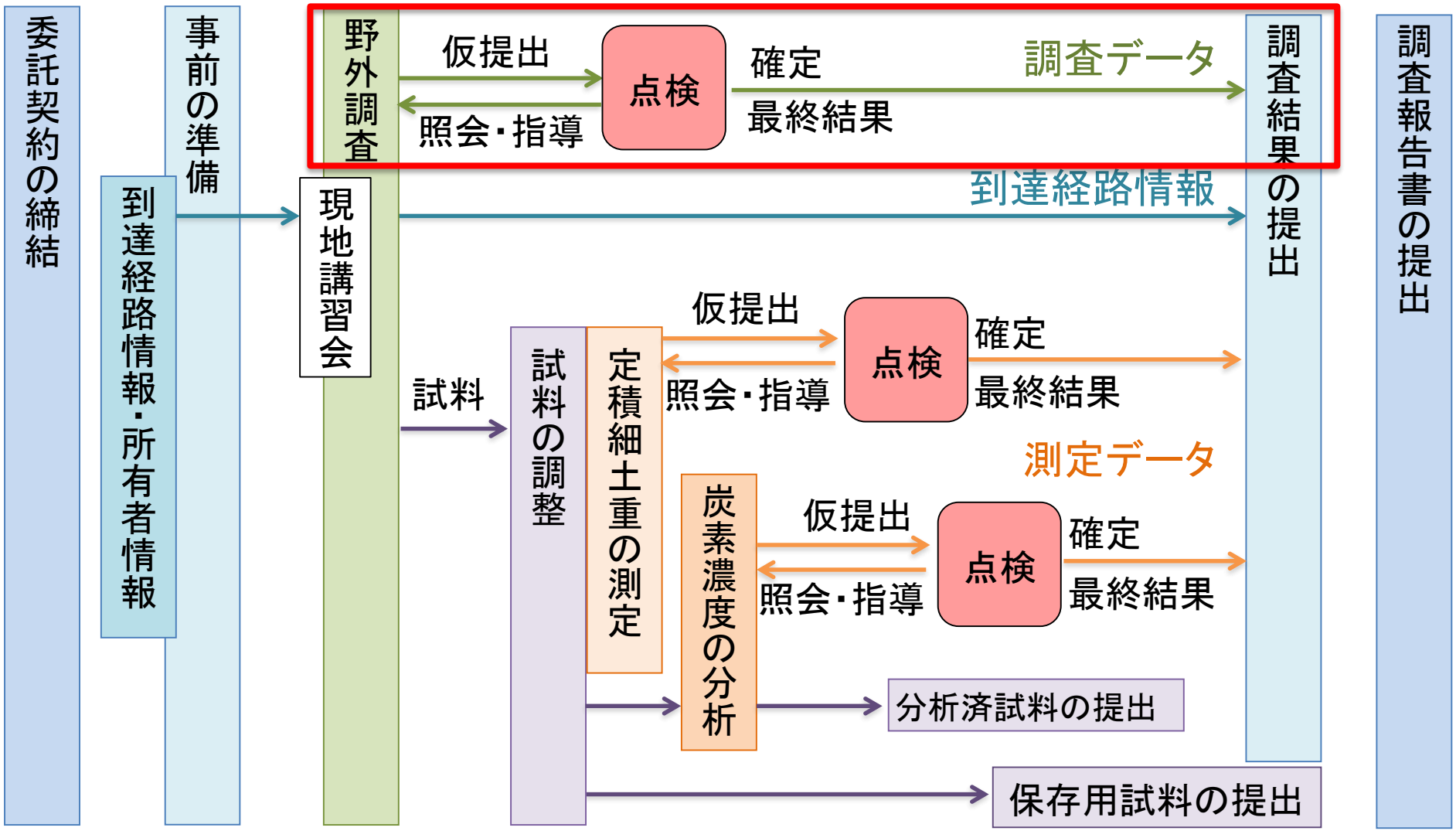
令和5年度森林吸収源インベントリ情報整備事業
全体説明会　補足資料

野外調査のデータ入力　詳細版

野外調査から結果報告までの手順



野外調査データの種類

野帳データ（手書き野帳のpdf）

様式A1：調査実施状況確認票

様式A2：調査プロット見取り図

様式A3：枯死木調査票
（ラインインターセクト法・ベルト法）

様式A4：炭素蓄積量調査票

様式A5：試料リスト

手書きの野帳 → 電子データ

データ入力フォーム
（A_form46.xlsm）

データの仮提出 必要

写真データ（個々の画像ファイル）

調査地林相写真

枯死木調査工程写真

炭素蓄積量調査工程写真

分析用試料混合工程写真

本提出の印刷物作成用

写真様式作成システム
（B_photo40.xlsm）

印刷用様式
- 様式B1：調査地林相写真
- 様式B2：枯死木調査工程写真
- 様式B3：炭素蓄積量調査工程写真
- 様式B4：分析用試料混合工程写真

GPSデータ

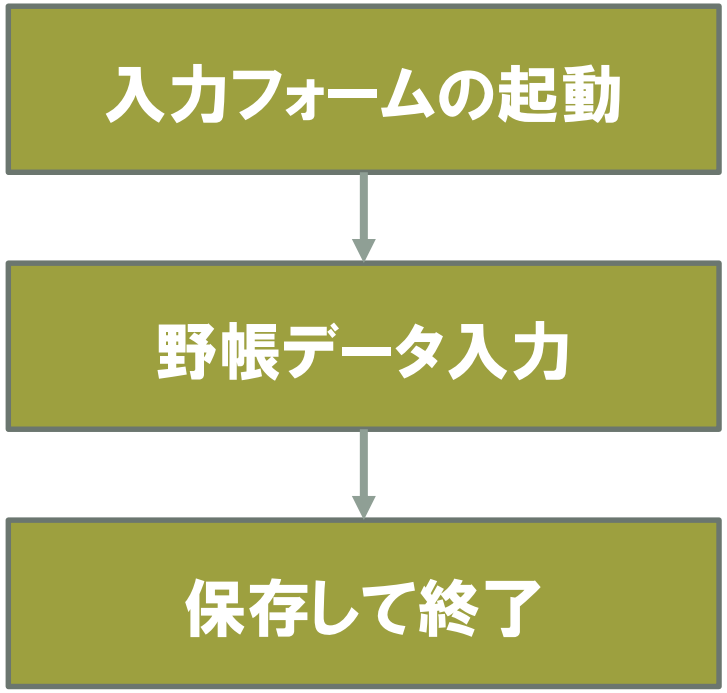
提供されるファイルと提出するファイル

提供されるファイル　　提出するファイル

A_form46.xlsm
　野外調査データ入力フォーム
　　→　A+[格子点ID6桁] .xlms

B_photo40.xlsm
　本提出での写真印刷用（ファイル提出なし）

野帳データの入力手順



データファイルは格子点IDごとに作成する

システム要件

OS　Windows 10

使用環境　Microsoft®Office®2016以降で作成してください。

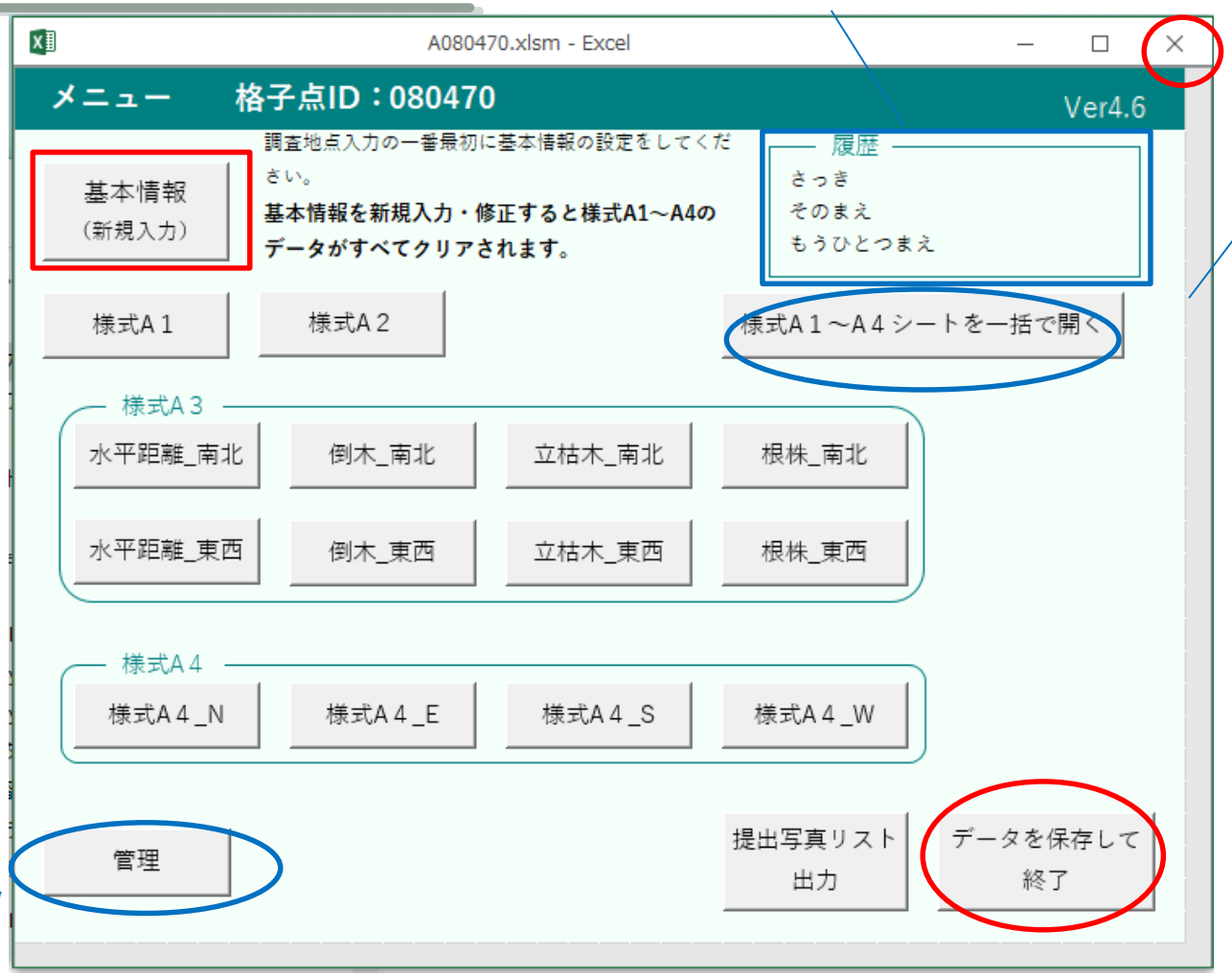
＊マクロを使用
　→　マクロの設定を有効にする

ファイル名：A_form46.xlsm

■ 入力フォームの基本画面

入力フォームを開いた履歴

入力フォームを閉じることができるが、入力データは**保存されない**



このボタンをクリックすることで、全ての入力フォームを開くことができる。最終チェック時などに便利。

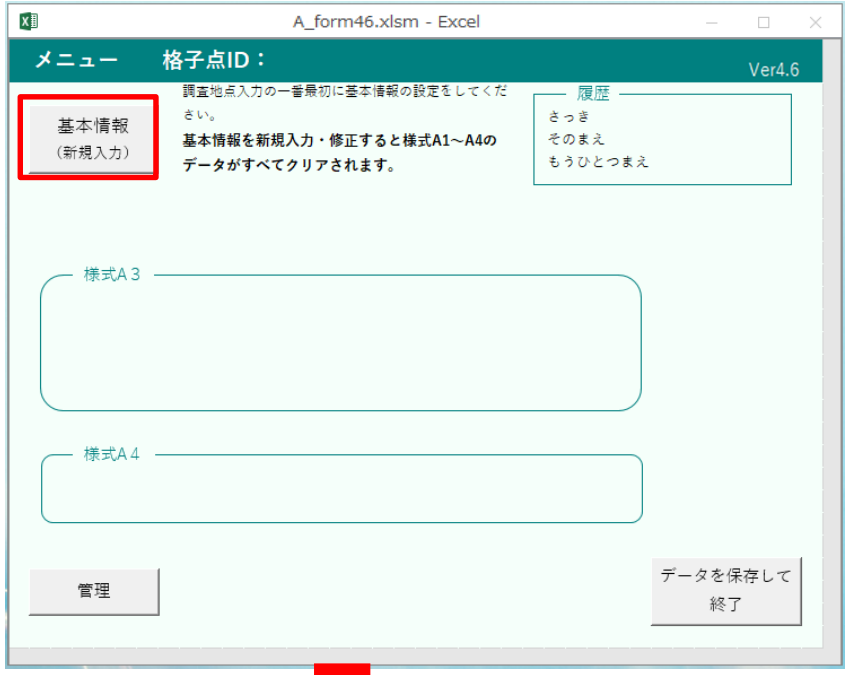
このボタンで入力フォームを閉じると入力データは**保存される**

森林総研内部用パスワードでロックがかかっている。

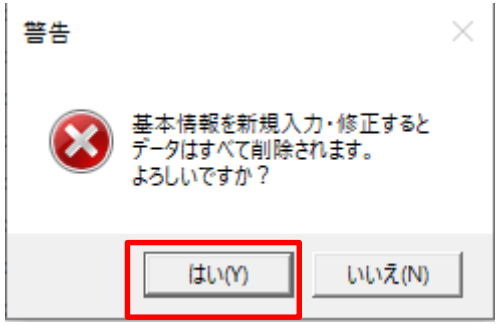
- A_form46.xlsm をクリックすると、この画面（入力フォーム）が立ち上がる。
- シートは見えない。
- 基本情報から入力を始める。
- 基本情報入力以後はどの調査項目からでも入力可。

■ 基本情報の入力1

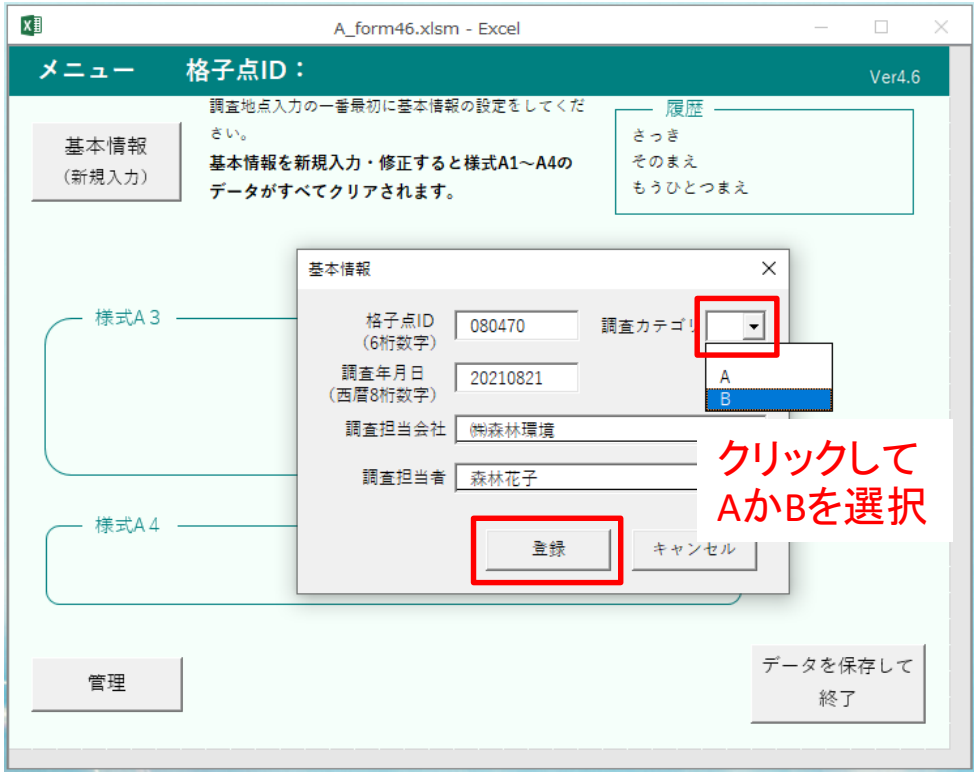
1. 「A_form46」のファイルを開き
「基本情報」のコマンドボタンをクリック



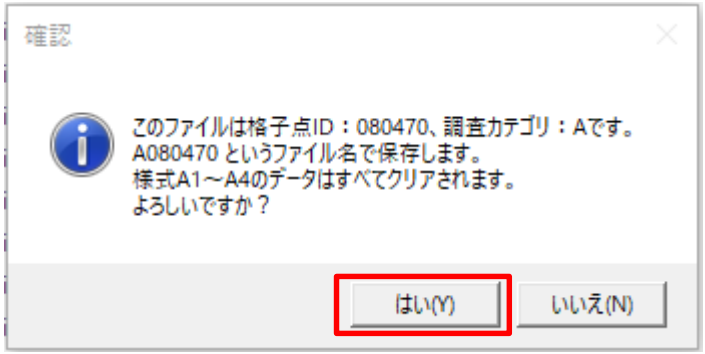
2. 「警告」タブが表示されるので
「はい」をクリック



3. 野帳の基本情報を入力フォームに入力する



4. 「登録」をクリックすると確認画面が表示
されるので「はい」をクリック

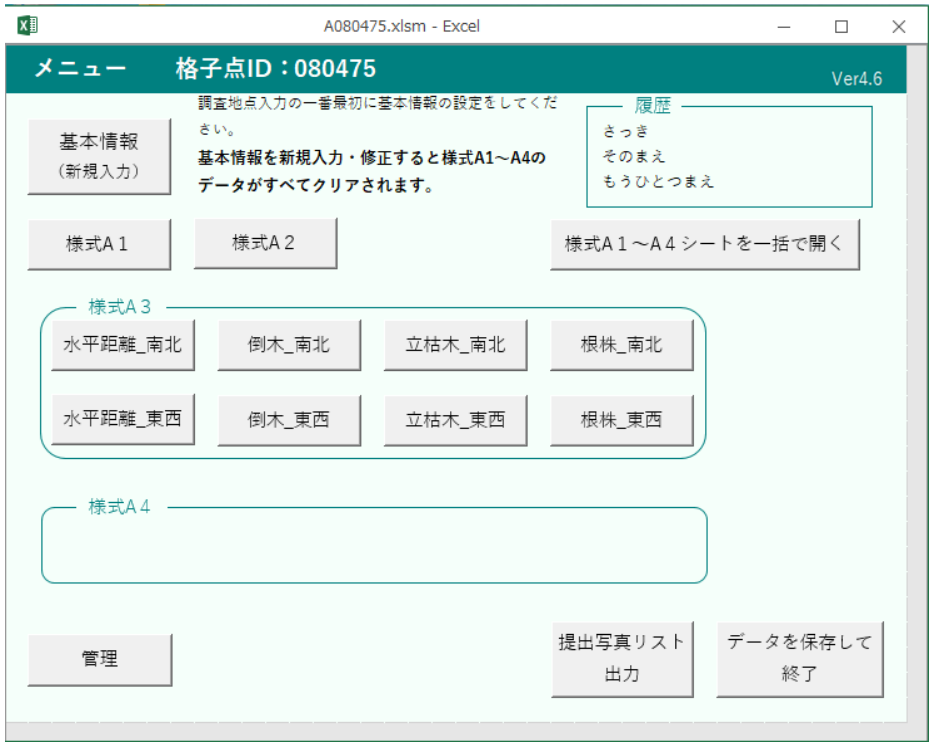


■ 基本情報の入力2

表示される画面

調査カテゴリが「A」の場合 14枚（様式A1～様式A4)

調査カテゴリが「B」の場合　10枚（様式A1～様式A3）



様式 A1

野帳の内容を入力フォームに入力する

手書き野帳

様式 A1　調査実施状況確認票

格子点ID(6桁数字)　080470
調査年月日(西暦8桁数字)　20210812
調査担当会社　(株)森林環境
調査担当者　森林 花子

調査カテゴリ：　(A)・B

調査実施状況：　(完了)・未完了・不実施（未完了、不実施の場合は備考欄に詳細経過を記入。）

不実施の理由
- □ 所有者・地権者の同意を得られない。
- □ 法的規制
- □ その他（具体的に　　）

調査地の属地情報

座標（中心点座標をGPSで確認し記入する。測地系はWGS84を使用する。）

北緯：36 度 30 分 53.51 秒　機器名：ガーミン eTrex Vista

東経：140 度 18 分 25.43 秒

地籍名：茨城 都道府県
東茨城 郡 城里 市町村 孫根 1435

森林所有：国有林・(民有林)

森林計画区：水戸那珂　林小班：711 は

国有林の場合 → 管轄森林管理署名：

到達経路
- ☑ 到達経路情報通りに到達できた。
- □ 到達経路情報とは一部異なっていたが、到達できた。
- □ 到達経路情報以外の経路で到達できた。
- □ 到達できなかった。

} 下の備考欄へ詳細を記入

備考（到達経路、調査プロットや中心杭、円周杭を見つけるための特記事項、未完了の理由など。）

☑ 生態系多様性基礎調査野帳（最大傾斜 29 °　半径斜距離 19.17 m）に基づいて仮杭を設置。((N)・E・S (W))

例1）（P.60の記載例に相当）N杭は林道法面との境界に打設されている。これを基準に土壌調査位置を決めると中円をかく乱するため、正規の位置に仮杭を設定し、土壌調査位置を決定した。
例2）W杭は多様性調査野帳の大円半径より短い距離に打設されているが、中円をかく乱する恐れがないので、この杭を基準に土壌調査をした。
例3）中心杭が20m以内の範囲に3本あった。到達経路情報の4方向写真を基に、最新の多様性調査のものと判断される杭を使用した。
例4）到達経路図のルートはヤブが厳しすぎたため、南西に約500m離れた谷から一度尾根まで上り調査地に下った。
例5）到達経路図が間違いで、プロットは北隣の尾根上にある。図示された位置より200m北にある作業道跡をたどりP2の赤ペンキまで到達し、斜面を直登した尾根上のギャップに中心杭がある。
例6）林道入り口に鍵付きゲートあり。○○森林事務所で鍵を借用。

不許可の例）　5月、6月、8月に資料を送付したが返信がなく、データに記載された電話番号は使われていなかった。インターネットとNTT番号案内サービスで電話番号を調べたが該当する番号を見つけることができず、調査期限に間に合うように許可が得られないため不許可とした。

到達不可能の例）　林道○○線が駐車位置の5.3km手前で昨年の豪雨災害により崩壊していて徒歩でも通行不能だった。○○森林管理署に問い合わせたところ、今年度中の復旧見込みはないとの回答だった。他に到達手段がないため不実施とした。

入力フォームの入力画面

様式 A1　調査実施状況確認票　×

格子点ID：080470　調査年月日：20210821　調査担当会社：㈱森林環境　調査担当者：森林花子

調査カテゴリ：A　スクロール設定

調査実施状況：◉ 完了　○ 未完了　○ 不実施　（未完了、不実施の場合は備考欄に詳細経過を記入。）

不実施の理由　（その他の場合、具体的に　　）

調査地の属地情報

座標（中心点座標をGPSで確認し記入する。測地系はWGS84を使用する。）

緯度：36 度 30 分 53.51 秒　機器名：Garmin eTrex vista

経度：140 度 18 分 25.43 秒

地籍名：茨城県
東茨城 郡 城里 町　市町村以下住所：孫根1435

森林所有：民有林

森林計画区：水戸那珂　林小班：711は

国有林の場合 → 管轄森林管理署名：

到達経路：到達経路情報通りに到達できた。

備考（到達経路、調査プロットや中心杭、外周杭を見つけるための特記事項、未完了の状況など。）

☑ 生態系多様性基礎調査野帳（最大傾斜 29 °，半径斜距離 19.17 m）に基づいて仮杭を設置。 N E S W

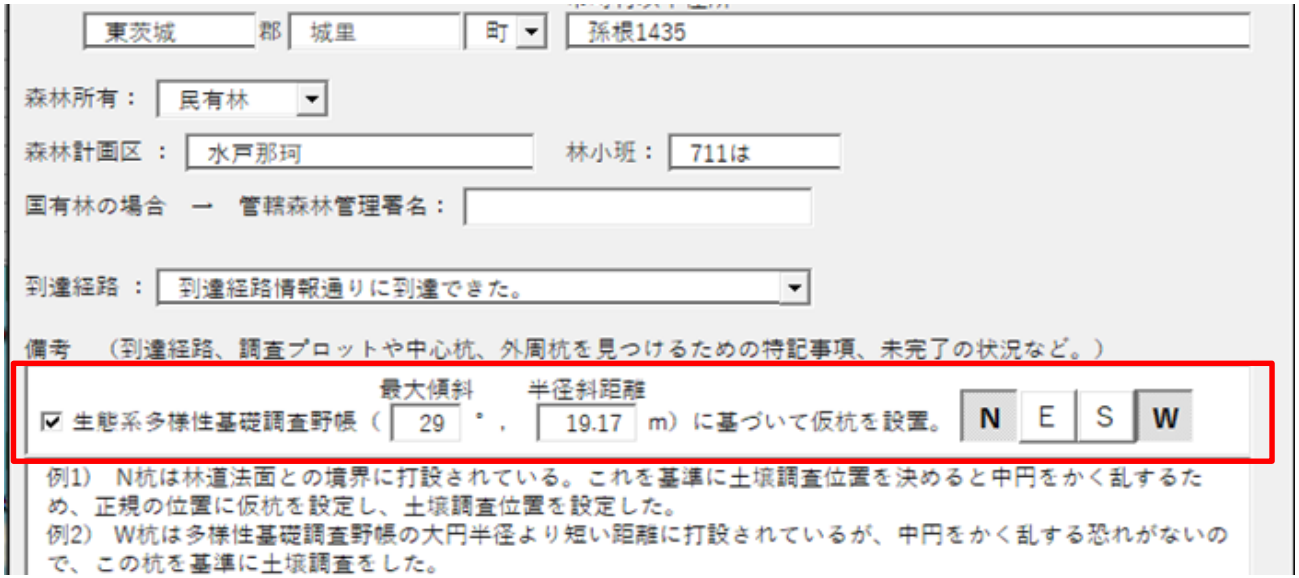
例1）N杭は林道法面との境界に打設されている。これを基準に土壌調査位置を決めると中円をかく乱するため、正規の位置に仮杭を設定し、土壌調査位置を設定した。
例2）W杭は多様性基礎調査野帳の大円半径より短い距離に打設されているが、中円をかく乱する恐れがないので、この杭を基準に土壌調査をした。
例3）中心杭が20m以内の範囲に3本あった。到達経路情報の4方向写真を基に、最新の多様性調査のものと判断される杭を使用した。
例4）到達経路図のルートは藪が厳しすぎたため、南西に約500m離れた谷から一度尾根まで上り調査地に下った。
不許可の例）5月、6月、8月に資料を送付したが返信がなく、データに記載された電話番号は使われていなかった。インターネットとNTT番号案内サービスで電話番号を調べたが該当する番号を見つけることができず、調査期限に間に合うように許可が得られないため不許可とした。

このシートのデータを消去　　データを保存して閉じる (Alt+c)

備考欄は改行するとき「Enter]で可能

「データを保存して閉じる」をクリックして、この入力フォームを閉じる

■ 様式A1　入力フォーム



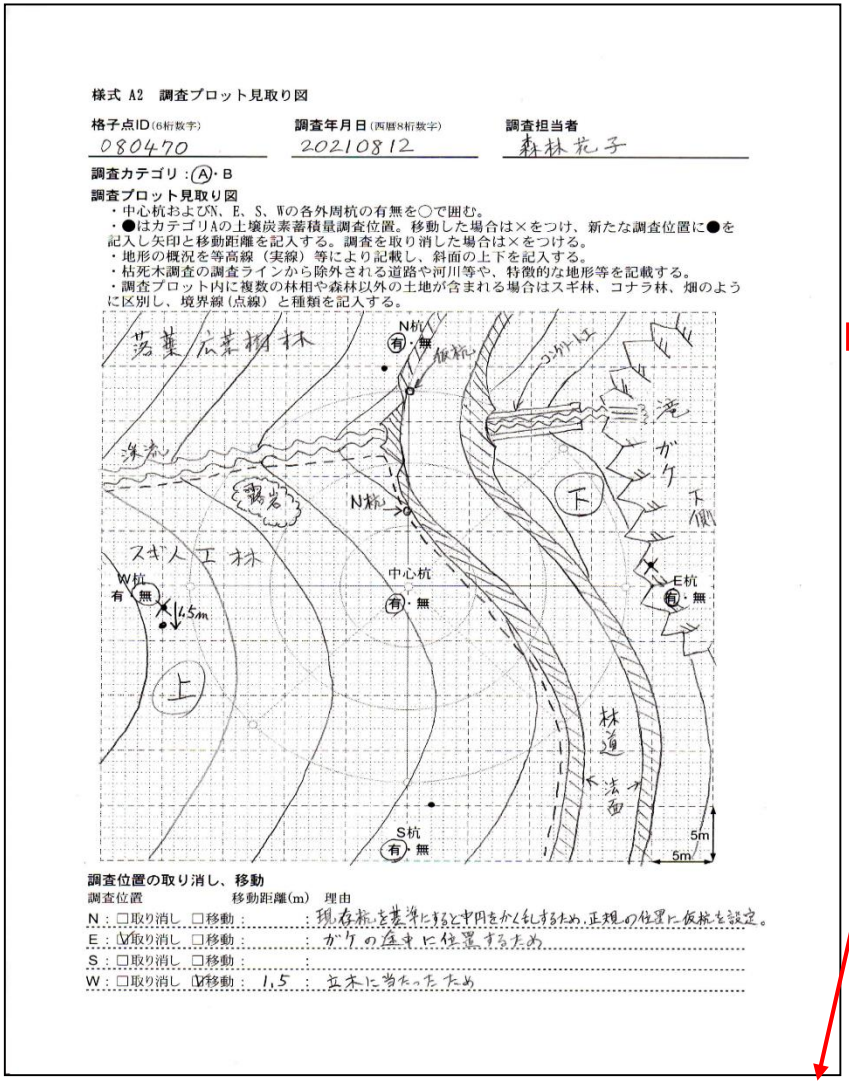
野帳と対応するよう入力フォームに入力

野帳　☑ 生態系多様性基礎調査野帳（最大傾斜 29 °　半径斜距離 19.17 m）に基づいて仮杭を設置。（Ⓝ･E･S･Ⓦ）

入力フォーム

■ 様式 A2

手書き野帳



様式 A2　調査プロット見取り図

格子点ID(6桁数字): 080470　調査年月日(西暦8桁数字): 20210812　調査担当者: 森林花子

調査カテゴリ：(A)・B

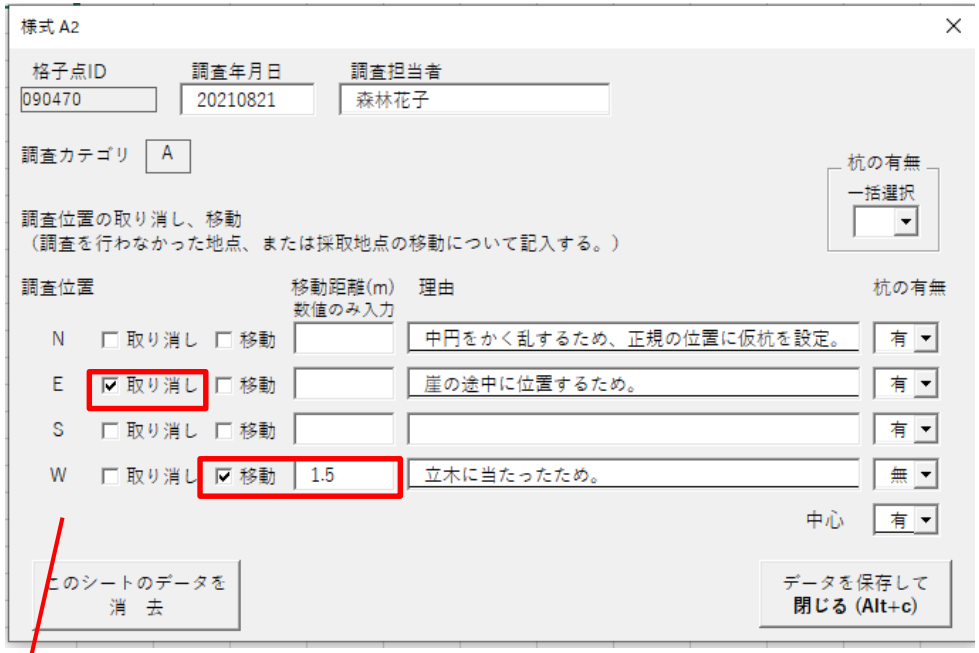
調査プロット見取り図

・中心杭およびN、E、S、Wの各外周杭の有無を○で囲む。
・●はカテゴリAの土壌炭素蓄積量調査位置。移動した場合は×をつけ、新たな調査位置に●を記入し矢印と移動距離を記入する。調査を取り消した場合は×をつける。
・地形の概況を等高線（実線）等により記載し、斜面の上下を記入する。
・枯死木調査の調査ラインから除外される道路や河川等や、特徴的な地形等を記載する。
・調査プロット内に複数の林相や森林以外の土地が含まれる場合はスギ林、コナラ林、畑のように区別し、境界線（点線）と種類を記入する。

調査位置の取り消し、移動

調査位置	移動距離(m)	理由
N：□取り消し □移動：		：現存杭を基準にすると中円をかく乱するため、正規の位置に仮杭を設定。
E：☑取り消し □移動：		：がけの途中に位置するため
S：□取り消し □移動：		：
W：□取り消し ☑移動：	1.5	：立木に当たったため

入力フォームの入力画面



様式 A2

格子点ID: 090470　調査年月日: 20210821　調査担当者: 森林花子

調査カテゴリ: A

杭の有無 一括選択

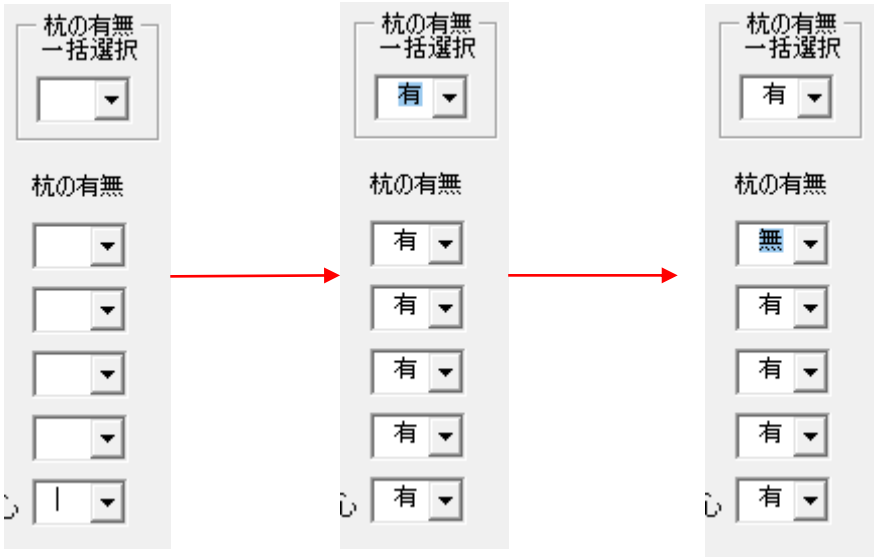
調査位置の取り消し、移動
（調査を行わなかった地点、または採取地点の移動について記入する。）

調査位置	取り消し	移動	移動距離(m) 数値のみ入力	理由	杭の有無
N	□	□		中円をかく乱するため、正規の位置に仮杭を設定。	有
E	☑	□		崖の途中に位置するため。	有
S	□	□			有
W	□	☑	1.5	立木に当たったため。	無
中心					有

このシートのデータを消去　データを保存して閉じる (Alt+c)

一括選択

コンボボックスごとに変更可能



杭の有無 一括選択

杭の有無

「取り消し」か「移動」にチェックを入れ、移動距離を入力するとその結果がA4に反映される

様式A3

手書き野帳

入力フォームの入力画面

様式 A3　ラインの水平距離測定（南北）

格子点ID: 080470　調査年月日: 20210821　調査担当者: 森林花子

調査ライン：南北

使用した測器：○ レーザー／超音波測器　◉ 巻尺とクリノメーター

番号	水平距離 水平距離(m)	斜距離と傾斜角 斜距離(m)	傾斜角(°)	対象外チェックと理由
1		6.5	8	☐
2		12.7	5	☐
3		6.9	6	☐
4		12.3	3	☑ 林道とその法面
5				☐
6				☐
7				☐
8				☐
9				☐

このシートのデータを消去　データを保存して閉じる (Alt+c)

様式 A3　枯死木調査票

格子点ID(6桁数字): 080470　調査年月日(西暦8桁数字): 20210812　調査担当者: 森林花子

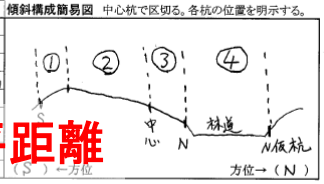
調査ライン：（南北）・東西　（ / ）枚中の（ / ）枚目　裏面への記載：（有）・無

ラインの水平距離測定　使用した測器　☐レーザー／超音波測器，☑巻尺とクリノメーター

←いずれかの方法で測定する

番号	水平距離(m)	斜距離(m)	傾斜角(°)	対象外チェックと理由
1		6.5	8	☐
2		12.7	5	☐
3		6.9	6	☐
4		12.3	3	☑ 林道とその法面
5				☐
6				☐
7				☐
8				☐
9				☐

傾斜構成簡易図　中心杭で区切る。各杭の位置を明示する。



樹種の略称設定：（ス：スギ）（タ：タケ）（　：　）（S：針葉樹）（K：広葉樹）

ラインインターセクト法
・倒木調査　☐倒木無し

番号	樹種	分解度	直径(cm)
1	ス	4	8.5
2	ス	2	12.0
3	ス(15)	3	11.5
4	ス(15)	3	10.0
5	ス(15)	3	13.5
6	ス(15)	3	12.5
7	ス	2	14.5
8	ス	4	11.5
9	ス	4	9.0
10	タ	[illegible]	15.0
11	タ	[illegible]	12.5
12	K	4	7.0
13	ス	2	13.5
14	タ	b	15.5
15	ス	4	9.5
16	タ	c	12.5
17			
18			
19			
20			

分解度：木本は0～5、タケはa～c
例外的処置：
同一樹種・分解度で1ラインに9本以上
→平均的な直径の4本を選び、
樹種(本数)、サイズを記入
例）タケ (23)　c　8.5
タケ (23)　c　9.5
タケ (23)　c　10.0
タケ (23)　c　9.5

ベルト法
・立枯木調査　☐立枯木無し

番号	樹種	分解度	胸高直径(cm)	高さ(m)	目測	幹折れ
1	ス	2	10.7	3.8	☐	☑
2	ス	3	9.5	5.0	☑	☐
3	K	3	13.0	6.5	☑	☑
4	タ	a	15.5	8.0	☑	☐
5	タ	a	13.0	7.5	☑	☐

・根株調査　☐根株無し
*札No. には根株の写真に写した札の番号を記入

札No.*	樹種	分解度	直径(cm) 根株	直径(cm) 地際	地際高(cm) 上	地際高(cm) 下	重複
E401	ス	4	10.0	13.5	18.5	22.0	☐
E402	ス	3	11.5	15.0	19.0	24.5	☐
E403	ス	4	7.5	10.0	61.0	65.5	☐
E404	K	3	15.5	19.5	42.0	56.5	☐
E405	K (E404分岐)	3	[illegible]	12.5	31.5	37.5	☐
E406	K	5	[illegible]	[illegible]	[illegible]	12.5	☐
E407	タ	c	[illegible]	[illegible]	4.0	4.5	☐
E408	タ	c	9.5	10.0	6.5	[illegible]	☑
E409	ス	3	15.0	20.5	16.5	23.0	☐
E410	ス	3	12.5	18.5	19.5	23.5	☐
E411	ス	3	14.0	19.0	20.0	25.5	☐

水平距離

立枯木

倒木

根株

様式 A3　ベルト法（南北）　立枯木調査

格子点ID: 080470　調査年月日: 20210821　調査担当者: 森林花子

調査ラインの方向：南北

☐ 立枯木無し

データを保存して閉じる (Alt+c)

番号		樹種	分解度	直径1 (cm)	直径2 (cm)	高さ (m)			例外的対処の本数
1	☐ 長径・短径	スギ	2	10.7		3.8	☐ 目測	☑ 幹折れ	
2	☐ 長径・短径	スギ	3	9.5		5.0	☑ 目測	☐ 幹折れ	
3	☐ 長径・短径	K：広葉樹	3	13.0		6.5	☑ 目測	☑ 幹折れ	
4	☐ 長径・短径	タケ	a	15.5		8.0	☑ 目測	☐ 幹折れ	
5	☐ 長径・短径	タケ	a	13.0		7.5	☑ 目測	☐ 幹折れ	
6	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
7	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
8	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
9	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
10	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
11	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
12	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
13	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
14	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	
15	☐ 長径・短径						☐ 目測	☐ 幹折れ	

様式 A3　ラインインターセクト法（南北）　倒木調査

格子点ID: 080470　調査年月日: 20210821　調査担当者: 森林花子

調査ラインの方向：南北

☐ 倒木無し

データを保存して閉じる (Alt+c)

番号		樹種	分解度	直径1 (cm)	直径2 (cm)	例外的対処の本数
1	☐ 長径・短径	スギ	4	8.5		
2	☐ 長径・短径	スギ	2	12.0		
3	☐ 長径・短径	スギ	3	11.5		15
4	☐ 長径・短径	スギ	3	10.0		15
5	☐ 長径・短径	スギ	3	13.5		15
6	☐ 長径・短径	スギ	3	12.5		15
7	☐ 長径・短径	スギ	2	14.5		
8	☐ 長径・短径	スギ	4	11.5		
9	☐ 長径・短径	スギ	4	9.0		
10	☐ 長径・短径	タケ	C	15.0		
11	☐ 長径・短径	タケ	C	12.5		
12	☐ 長径・短径	K：広葉樹	4	7.0		
13	☐ 長径・短径	スギ	2	13.5		
14	☐ 長径・短径	タケ	6	15.5		
15	☐ 長径・短径	スギ	4	9.5		

様式 A3　ベルト法（南北）　根株調査

格子点ID: 080470　調査年月日: 20210821　調査担当者: 森林花子

調査ラインの方向：南北

☐ 根株無し

データを保存して閉じる (Alt+c)

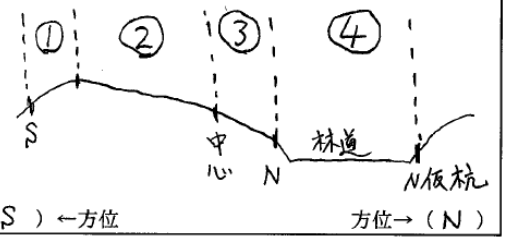
番号		札No.	樹種	分解度	根株直径1 (cm)	根株直径2 (cm)	地際直径1 (cm)	地際直径2 (cm)	地際高上 (cm)	地際高下 (cm)			例外的対処の本数
1	☐ 長径・短径	E401	スギ	4	10.0		13.5		18.5	22.0	☐ 重複	☐ 分岐	
2	☐ 長径・短径	E402	スギ	3	11.5		15.0		19.0	24.5	☐ 重複	☐ 分岐	
3	☐ 長径・短径	E403	スギ	4	7.5		10.0		61.0	65.5	☐ 重複	☐ 分岐	
4	☐ 長径・短径	E404	K：広葉樹	3	15.5		19.5		42.0	56.5	☐ 重複	☐ 分岐	
5	☐ 長径・短径	E405	K：広葉樹	3	8.0		12.5		31.5	37.5	☐ 重複	☑ 分岐	
6	☑ 長径・短径	E406	K：広葉樹	5	65.5	32.0	70.0	35.5	15.0	12.5	☐ 重複	☐ 分岐	
7	☐ 長径・短径	E407	タケ	C	8.0		8.0		4.0	4.5	☐ 重複	☐ 分岐	
8	☐ 長径・短径	E408	タケ	C	9.5		10.0		6.5	8.0	☐ 重複	☐ 分岐	
9	☐ 長径・短径	E409	スギ	3	15.0		20.5		16.5	23.0	☐ 重複	☐ 分岐	
10	☐ 長径・短径	E410	スギ	3	12.5		18.5		19.5	23.5	☐ 重複	☐ 分岐	
11	☐ 長径・短径	E411	スギ	3	14.0		19.0		20.0	25.5	☐ 重複	☐ 分岐	
12	☐ 長径・短径										☐ 重複	☐ 分岐	
13	☐ 長径・短径										☐ 重複	☐ 分岐	
14	☐ 長径・短径										☐ 重複	☐ 分岐	
15	☐ 長径・短径										☐ 重複	☐ 分岐	

様式A3　　水平距離

手書き野帳

ラインの水平距離測定　　使用した測器　☐レーザー／超音波測器，☑巻尺とクリノメーター

	水平距離	斜距離と傾斜角		←いずれかの方法で測定する	
番号	水平距離(m)	斜距離(m)	傾斜角(°)	対象外チェックと理由	傾斜構成簡易図　中心杭で区切る。各杭の位置を明示する。
1		6.5	8	☐	
2		12.7	5	☐	
3		6.9	6	☐	
4		12.3	3	☑ 林道とその法面	
5				☐	
6				☐	
7				☐	
8				☐	
9				☐	



入力フォームの入力画面

様式 A3　ラインの水平距離測定（南北）

格子点ID: 080470　　調査年月日: 20210821　　調査担当者: 森林花子

調査ライン：**南北**

使用した測器：○ レーザー／超音波測器　◉ 巻尺とクリノメーター

	水平距離	斜距離と傾斜角			
番号	水平距離(m)	斜距離(m)	傾斜角(°)		対象外チェックと理由
1		6.5	8	☐	
2		12.7	5	☐	
3		6.9	6	☐	
4		12.3	3	☑	林道とその法面
5				☐	
6				☐	
7				☐	
8				☐	
9				☐	

このシートのデータを消去　　データを保存して閉じる (Alt+c)

＊レザーか超音波測器で計測
→「水平距離」に入力

＊巻尺とクリノメーターで計測
→「斜距離と傾斜角」に入力

■ 様式A3　倒木

例外的処置について

様式 A3　枯死木調査票

格子点ID(6桁数字): 080470　　調査年月日(西暦8桁数字): 20210812　　調査担当者: 森林 花子

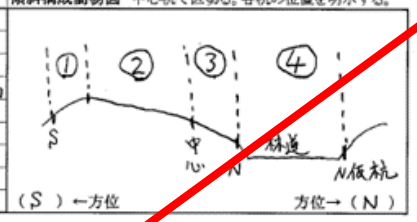
調査ライン：(南北)・東西　（ / ）枚中の（ / ）枚目　　裏面への記載：(有)・無

ラインの水平距離測定　　使用した測器 □レーザー／超音波測器, ☑巻尺とクリノメーター

番号	水平距離(m)	斜距離(m)	傾斜角(°)	対象外チェックと理由
1		6.5	8	□
2		12.7	5	□
3		6.9	6	□
4		12.3	3	☑ 林道とその法面
5				□
6				□
7				□
8				□
9				□

←いずれかの方法で測定する

傾斜構成簡易図　中心杭で区切る。各杭の位置を明示する。



樹種の略称設定：（ス：スギ）（タ：タケ）（　：　）（S：針葉樹）（K：広葉樹）

ラインインターセクト法
・倒木調査　□倒木無し

番号	樹種	分解度	直径(cm)
1	ス	4	8.5
2	ス	2	12.0
3	ス(15)	3	11.5
4	ス(15)	3	10.0
5	ス(15)	3	13.5
6	ス(15)	3	12.5
7	ス	2	14.5
8	ス	4	11.5
9	ス	4	9.0
10	タ	c	15.0
11	タ	c	12.5
12	K	4	7.0
13	ス	2	13.5
14	タ	b	15.5
15	ス	4	9.5
16	タ	c	12.5
17			
18			
19			
20			

ベルト法
・立枯木調査　□立枯木無し

番号	樹種	分解度	胸高直径(cm)	高さ(m)	目測	幹折れ
1	ス	2	10.7	3.8	□	☑
2	ス	3	9.5	5.0	☑	□
3	K	3	13.0	6.5	☑	☑
4	タ	a	15.5	8.0	☑	□
5	タ	a	13.0	7.5	☑	□

・根株調査　□根株無し

*札No. には根株の写真に写した札の番号を記入

札No.*	樹種	分解度	直径(cm) 根株	直径(cm) 地際	地際高(cm) 上	地際高(cm) 下	重複
E401	ス	4	10.0	13.5	18.5	22.0	□
E402	ス	3	11.5	15.0	19.0	24.5	□
E403	ス	4	7.5	10.0	61.0	65.5	□
E404	K	3	15.5	19.5	42.0	56.5	□
E405	K (E404/分株)	3	8.0	12.5	31.5	37.5	□
E406	K	5	65.5,32.0	70.0,33.5	15.0	12.5	□
E407	タ	c	8.0	8.0	4.0	4.5	□
E408	タ	c	9.5	10.0	6.5	8.0	☑
E409	ス	3	15.0	20.5	16.5	23.0	□
E410	ス	3	12.5	18.5	19.5	23.5	□
E411	ス	3	14.0	19.0	20.0	25.5	□
							□
							□
							□
							□

分解度：木本は0～5、タケはa～c
例外的処置：
同一樹種・分解度で1ラインに9本以上
→平均的な直径の4本を選び、
樹種(本数)、サイズを記入
例）タケ (23)　c　8.5
タケ (23)　c　9.5
タケ (23)　c　10.0
タケ (23)　c　9.5

正しい例

ラインインターセクト法
・倒木調査　□倒木無し

番号	樹種	分解度	直径(cm)
1	ス	4	8.5
2	ス	2	12.0
3	ス(15)	3	11.5
4	ス(15)	3	10.0
5	ス(15)	3	13.5
6	ス(15)	3	12.5
7	ス	2	14.5
8	ス	4	11.5
9	ス	4	9.0
10	タ	c	15.0
11	タ	c	12.5
12	K	4	7.0
13	ス	2	13.5
14	タ	b	15.5
15	ス	4	9.5
16	タ	c	12.5
17			
18			
19			
20			

間違った例

ラインインターセクト法
・倒木調査　□倒木無し

番号	樹種	分解度	直径(cm)
1	ス(15)	3	11.5
2	ス(15)	3	10.0
3	ス	4	8.5
4	ス(15)	3	13.5
5	ス	2	12.0
6	ス(15)	3	12.5
7	ス	2	14.5
8	ス	4	11.5
9	ス	4	9.0
10	タ	c	15.0
11	タ	c	12.5
12	K	4	7.0
13	ス	2	13.5
14	タ	b	15.5
15	ス	4	9.5
16	タ	c	12.5
17			
18			
19			
20			

例外的処置：同一樹種・分解度で1ラインに9本以上→平均的な直径の4本を選び、樹種（本数）、サイズを記入

記入するときに番号が飛び飛びにならないようまとめる

■ 様式A3　倒木

手書き野帳

ラインインターセクト法
・倒木調査　　□倒木無し

番号	樹種	分解度	直径(cm)
1	ス	4	8.5
2	ス	2	12.0
3	ス(15)	3	11.5
4	ス(15)	3	10.0
5	ス(15)	3	13.5
6	ス(15)	3	12.5
7	ス	2	14.5
8	ス	4	11.5
9	ス	4	9.0
10	タ	C	15.0
11	タ	C	12.5
12	K	4	7.0
13	ス	2	13.5
14	タ	b	15.5
15	ス	4	9.5
16	タ	C	12.5
17			
18			
19			
20			

分解度：木本は0～5、タケはa～c
例外的処置：
　同一樹種・分解度で1ラインに9本以上
　→平均的な直径の4本を選び、
　　樹種（本数）、サイズを記入
　例）タケ (23)　c　8.5
　　タケ (23)　c　9.5
　　タケ (23)　c　10.0
　　タケ (23)　c　9.5

入力フォームの入力画面

様式 A3　ラインインターセクト法（南北）　倒木調査

格子点ID: 080470　調査年月日: 20210821　調査担当者: 森林花子

調査ラインの方向：南北

□ 倒木無し

データを保存して閉じる (Alt+c)

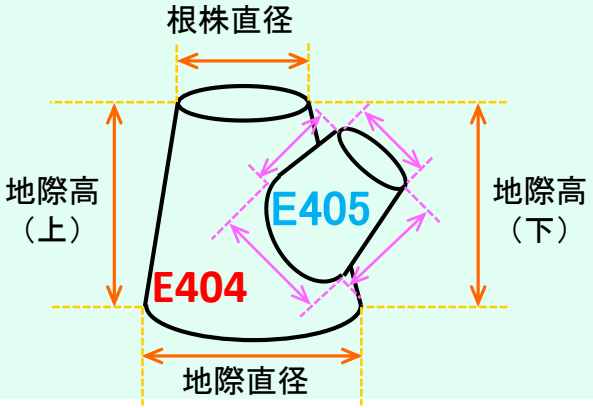
番号		樹種	分解度	直径1 (cm)	直径2 (cm)	例外的対処の本数
1	□ 長径・短径	スギ	4	8.5		
2	□ 長径・短径	スギ	2	12.0		
3	□ 長径・短径	スギ	3	11.5		15
4	□ 長径・短径	スギ	3	10.0		15
5	□ 長径・短径	スギ	3	13.5		15
6	□ 長径・短径	スギ	3	12.5		15
7	□ 長径・短径	スギ	2	14.5		
8	□ 長径・短径	スギ	4	11.5		
9	□ 長径・短径	スギ	4	9.0		
10	□ 長径・短径	タケ	C	15.0		
11	□ 長径・短径	タケ	C	12.5		
12	□ 長径・短径	K：広葉樹	4	7.0		
13	□ 長径・短径	スギ	2	13.5		
14	□ 長径・短径	タケ	6	15.5		
15	□ 長径・短径	スギ	4	9.5		

例外的処置に注意して入力する

様式A3　根株

根株が途中で分岐している場合

マニュアル26頁



1. 本体となる根株（E404）と途中から分岐したもの（E405）に分ける。
2. 本体（E404）は地面の地際から測定。
3. 分岐した根株（E405）は分岐の根本から測定。

※どちらもほぼ同じサイズの場合：
どちらかを本体と決めて同様に別個体として測定。

手書き野帳

札No.*	樹種	分解度	直径(cm)		地際高(cm)		重複
			根株	地際	上	下	
E401	ス	4	10.0	13.5	18.5	22.0	□
E402	ス	3	11.5	15.0	19.0	24.5	□
E403	ス	4	7.5	10.0	61.0	65.5	□
E404	K	3	15.5	19.5	42.0	56.5	□
E405	K (E404/分岐)	3	8.0	12.5	31.5	37.5	□

本体となる根株

分岐した根株

分岐した根株は（本体となる根株の札No.＋分岐）を記入

入力フォーム

番号		札No.	樹　種	分解度	根株直径1 (cm)	根株直径2 (cm)	地際直径1 (cm)	地際直径2 (cm)	地際高上 (cm)	地際高下 (cm)			例外的対処の本数
1	□ 長径・短径	E401	スギ	4	10.0		13.5		18.5	22.0	□ 重複	□ 分岐	
2	□ 長径・短径	E402	スギ	3	11.5		15.0		19.0	24.5	□ 重複	□ 分岐	
3	□ 長径・短径	E403	スギ	4	7.5		10.0		61.0	65.5	□ 重複	□ 分岐	
4	□ 長径・短径	E404	K：広葉樹	3	15.5		19.5		42.0	56.5	□ 重複	□ 分岐	
5	□ 長径・短径	E405	K：広葉樹	3	8.0		12.5		31.5	37.5	□ 重複	☑ 分岐	

本体となる根株

分岐した根株

分岐した根株は「分岐」にチェック

様式A3　根株

手書き野帳

・根株調査　　□根株無し

*札No. には根株の写真に写した札の番号を記入

札No.*	樹種	分解度	直径(cm) 根株	直径(cm) 地際	地際高(cm) 上	地際高(cm) 下	重複
E401	ス	4	10.0	13.5	18.5	22.0	□
E402	ス	3	11.5	15.0	19.0	24.5	□
E403	ス	4	7.5	10.0	61.0	65.5	□
E404	K	3	15.5	19.5	42.0	56.5	□
E405	K (E404/2株)	3	8.0	12.5	31.5	37.5	□
E406	K	5	65.5, 32.0	70.0, 35.5	15.0	12.5	□
E407	タ	C	8.0	8.0	4.0	4.5	□
E408	タ	C	9.5	10.0	6.5	8.0	☑
E409	ス	3	15.0	20.5	16.5	23.0	□
E410	ス	3	12.5	18.5	19.5	23.5	□
E411	ス	3	14.0	19.0	20.0	25.5	□

長径、短径を測定した場合（倒木、立枯木も同じ）
入力フォームの直径2のテキストボックスは、「長径、短径を測定」のチェックボックスに✔を入れないと、入力できない。

測定した枯死木のデータ

- データは60本まで入力可。
- 12本分のデータを入力すると、次の12本を入力することができる。

入力フォームの入力画面

調査ラインの方向：**南北**

□ 根株無し

データを保存して閉じる (Alt+c)

番号		札No.	樹種	分解度	根株直径1 (cm)	根株直径2 (cm)	地際直径1 (cm)	地際直径2 (cm)	地際高上 (cm)	地際高下 (cm)		例外的対処の本数
1	□ 長径・短径	E401	スギ	4	10.0		13.5		18.5	22.0	□ 重複 □ 分岐	
2	□ 長径・短径	E402	スギ	3	11.5		15.0		19.0	24.5	□ 重複 □ 分岐	
3	□ 長径・短径	E403	スギ	4	7.5		10.0		61.0	65.5	□ 重複 □ 分岐	
4	□ 長径・短径	E404	K：広葉樹	3	15.5		19.5		42.0	56.5	□ 重複 □ 分岐	
5	□ 長径・短径	E405	K：広葉樹	3	8.0		12.5		31.5	37.5	□ 重複 ☑ 分岐	
6	☑ 長径・短径	E406	K：広葉樹	5	65.5	32.0	70.0	35.5	15.0	12.5	□ 重複 □ 分岐	
7	□ 長径・短径	E407	タケ	C	8.0		8.0		4.0	4.5	□ 重複 □ 分岐	
8	□ 長径・短径	E408	タケ	C	9.5		10.0		6.5	8.0	☑ 重複 □ 分岐	
9	□ 長径・短径	E409	スギ	3	15.0		20.5		16.5	23.0	□ 重複 □ 分岐	
10	□ 長径・短径	E410	スギ	3	12.5		18.5		19.5	23.5	□ 重複 □ 分岐	
11	□ 長径・短径	E411	スギ	3	14.0		19.0		20.0	25.5	□ 重複 □ 分岐	

重複
同じ根株なので写真はひとつでよい

■ 様式A3　立枯木

手書き野帳

ベルト法

・立枯木調査　□立枯木無し

番号	樹種	分解度	胸高直径(cm)	高さ(m)	目測	幹折れ
1	ス	2	10.7	3.8	□	☑
2	ス	3	9.5	5.0	☑	□
3	K	3	13.0	6.5	☑	☑
4	タ	a	15.5	8.0	☑	□
5	タ	a	13.0	7.5	☑	□

入力フォームの入力画面

様式 A3　ベルト法（南北）　立枯木調査

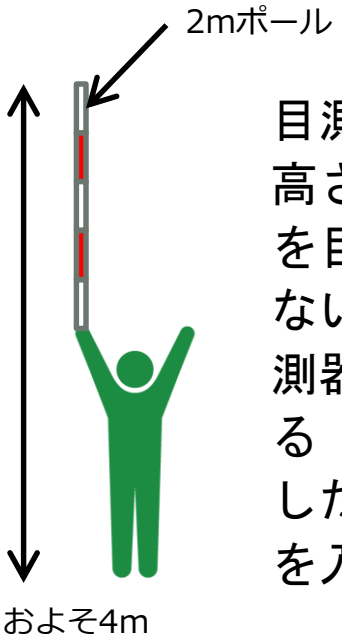
格子点ID: 080470　調査年月日: 20210821　調査担当者: 森林花子

調査ラインの方向：南北

□ 立枯木無し

データを保存して閉じる (Alt+c)

番号		樹種	分解度	直径1 (cm)	直径2 (cm)	高さ (m)			例外的対処の本数
1	□ 長径・短径	スギ	2	10.7		3.8	□ 目測	☑ 幹折れ	
2	□ 長径・短径	スギ	3	9.5		5.0	☑ 目測	□ 幹折れ	
3	□ 長径・短径	K：広葉樹	3	13.0		6.5	☑ 目測	☑ 幹折れ	
4	□ 長径・短径	タケ	a	15.5		8.0	☑ 目測	□ 幹折れ	
5	□ 長径・短径	タケ	a	13.0		7.5	☑ 目測	□ 幹折れ	



目測

高さは測器を使用するかポールを目安に測定し、ポールが届かない高さ（おおむね4m以上）で測器がない場合は目測で記載する（入力フォームは目測で測定した場合は目測の□にチェックを入れる）。

マニュアル22頁

幹折れ

b)かc)の幹折れがあれば「幹折れ」にチェック

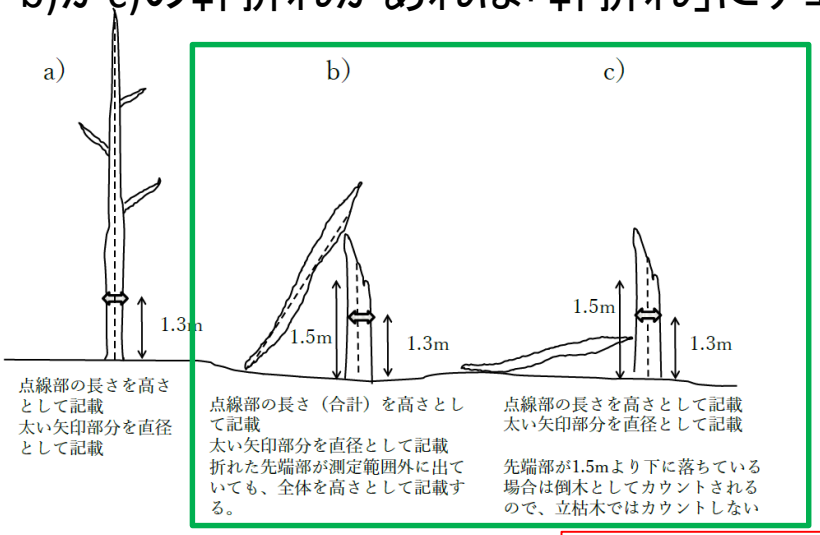


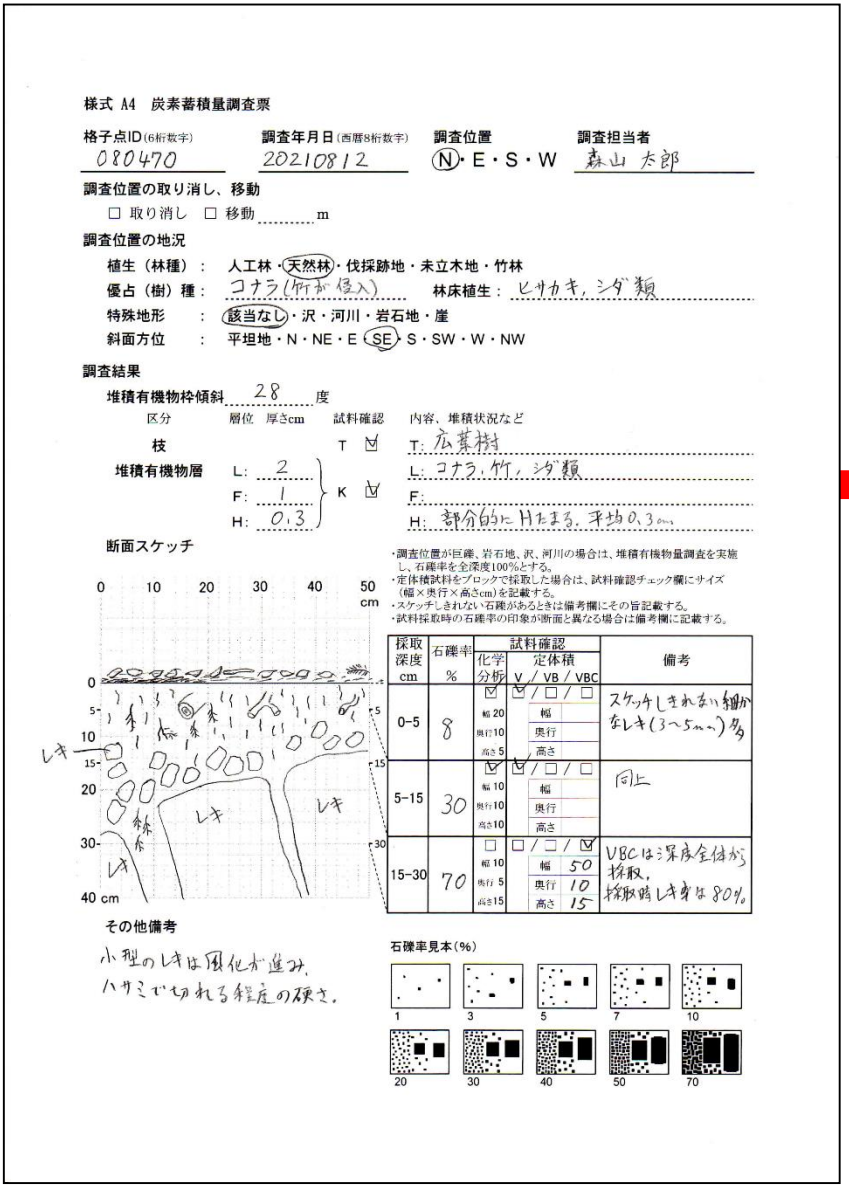
図 13　立枯木の測定位置の模式図

マニュアル22頁

<u>このケースは実測</u>

■ 様式 A4

手書き野帳



様式 A4　炭素蓄積量調査票

格子点ID(6桁数字) 080470　調査年月日(西暦8桁数字) 20210812　調査位置 (N)・E・S・W　調査担当者 森山 太郎

調査位置の取り消し、移動
☐ 取り消し　☐ 移動 ……m

調査位置の地況
植生（林種）： 人工林・(天然林)・伐採跡地・未立木地・竹林
優占（樹）種： コナラ(竹が侵入)　林床植生： ヒサカキ, シダ類
特殊地形　： (該当なし)・沢・河川・岩石地・崖
斜面方位　： 平坦地・N・NE・E (SE) S・SW・W・NW

調査結果
堆積有機物枠傾斜 28 度

区分	層位	厚さcm	試料確認	内容、堆積状況など
枝			T ☑	T: 広葉樹
堆積有機物層	L:	2	K ☑	L: コナラ, 竹, シダ類
	F:	1		F:
	H:	0.3		H: 部分的にHたまる. 平均0.3cm

断面スケッチ

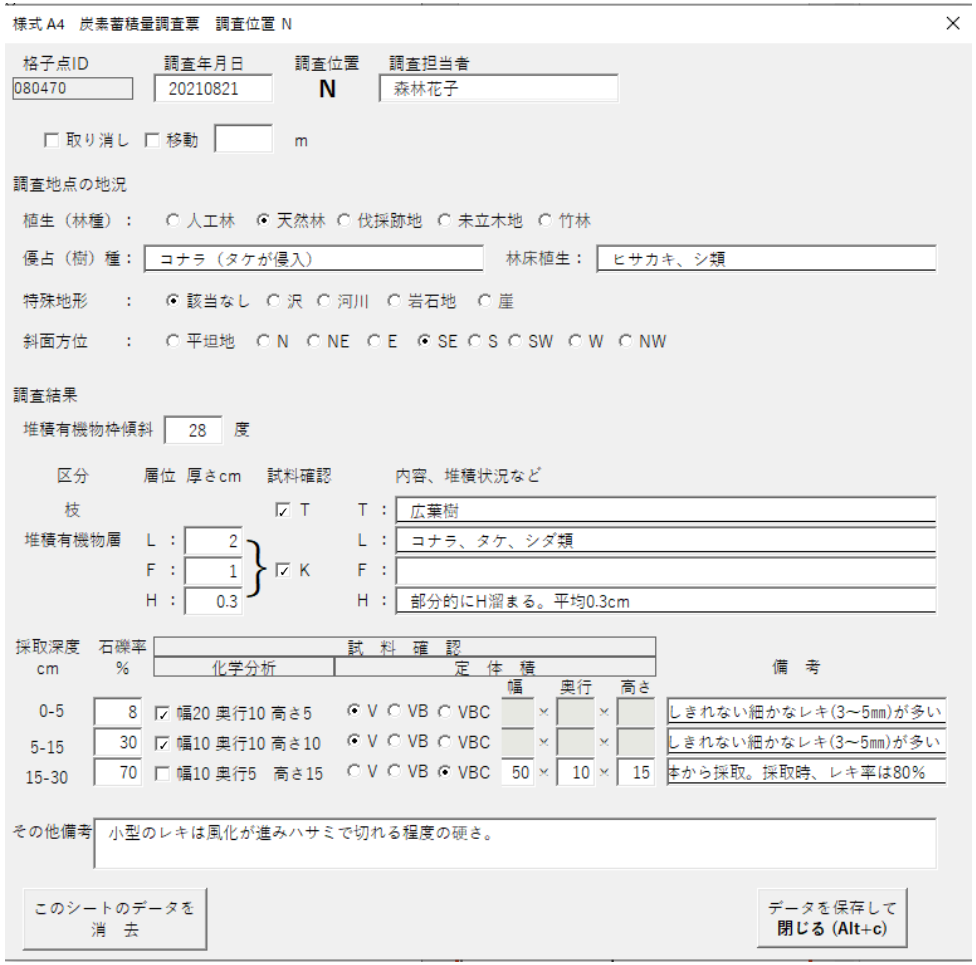
・調査位置が巨礫、岩石地、沢、河川の場合は、堆積有機物量調査を実施し、石礫率を全深度100%とする。
・定体積試料をブロックで採取した場合は、試料確認チェック欄にサイズ（幅×奥行×高さcm）を記載する。
・スケッチしきれない石礫があるときは備考欄にその旨記載する。
・試料採取時の石礫率の印象が断面と異なる場合は備考欄に記載する。

採取深度 cm	石礫率 %	試料確認 化学分析	試料確認 定体積 V / VB / VBC	備考
0–5	8	☑	☑ / ☐ / ☐ 幅20 奥行10 高さ5	スケッチしきれない細かなレキ(3~5mm)多
5–15	30	☑	☑ / ☐ / ☐ 幅10 奥行10 高さ10	同上
15–30	70	☐	☐ / ☐ / ☑ 幅10 奥行5 高さ15	VBCは深度全体から採取. 採取時レキ率は80%

その他備考
小型のレキは風化が進み, ハサミで切れる程度の硬さ.

石礫率見本(%)
1 3 5 7 10
20 30 40 50 70

入力フォームの入力画面



様式 A4　炭素蓄積量調査票　調査位置 N

格子点ID 080470　調査年月日 20210821　調査位置 N　調査担当者 森林花子

☐ 取り消し　☐ 移動 ……m

調査地点の地況
植生（林種）： ○ 人工林 ◉ 天然林 ○ 伐採跡地 ○ 未立木地 ○ 竹林
優占（樹）種： コナラ（タケが侵入）　林床植生： ヒサカキ、シ類
特殊地形　： ◉ 該当なし ○ 沢 ○ 河川 ○ 岩石地 ○ 崖
斜面方位　： ○ 平坦地 ○ N ○ NE ○ E ◉ SE ○ S ○ SW ○ W ○ NW

調査結果
堆積有機物枠傾斜 28 度

区分	層位	厚さcm	試料確認	内容、堆積状況など
枝			☑ T	T： 広葉樹
堆積有機物層	L：	2	☑ K	L： コナラ、タケ、シダ類
	F：	1		F：
	H：	0.3		H： 部分的にH溜まる。平均0.3cm

採取深度 cm	石礫率 %	試料確認 化学分析	試料確認 定体積	V / VB / VBC	幅	奥行	高さ	備考
0-5	8	☑	幅20 奥行10 高さ5	◉ V ○ VB ○ VBC				しきれない細かなレキ(3~5mm)が多い
5-15	30	☑	幅10 奥行10 高さ10	◉ V ○ VB ○ VBC				しきれない細かなレキ(3~5mm)が多い
15-30	70	☐	幅10 奥行5 高さ15	○ V ○ VB ◉ VBC	50	10	15	本から採取。採取時、レキ率は80%

その他備考 小型のレキは風化が進みハサミで切れる程度の硬さ。

このシートのデータを消去　データを保存して閉じる (Alt+c)

A4シートの「取り消し」や「移動」にチェックが入っているが修正したい場合は、A2シートに戻ってチェックを外すとA4シートのチェックも外れる。

■ 様式 A4　堆積有機物層

堆積有機物層
層厚が0の場合：空欄や「－（ダッシュ）」ではなく0を記載

手書き野帳

調査結果

堆積有機物枠傾斜 28 度

区分	層位	厚さcm	試料確認		内容、堆積状況など
枝			T	☑	T: 広葉樹
堆積有機物層	L:	2	K	☑	L: コナラ, 竹, シダ類
	F:	1			F:
	H:	0			H:

入力フォームの入力画面

調査結果

堆積有機物枠傾斜 28 度

区分	層位	厚さcm	試料確認		内容、堆積状況など
枝			☑	T	T ： 広葉樹
堆積有機物層	L ：	2	☑	K	L ： コナラ、タケ、シダ類
	F ：	1			F ：
	H ：	0			H ：

■ 様式A4　　石礫率

記載方法の確認

1. 石礫率　95%～99%の場合　→　**90%**と記載

2. スケッチしきれない細かな石礫があるため、スケッチと記載の石礫率が一致しない場合

   → 「スケッチできない細かい礫あり」と記載

入力フォーム　様式A4

採取深度 cm	石礫率 %	試料確認						備考
		化学分析	定体積	幅		奥行		高さ	
0-5	1	☑ 幅20 奥行10 高さ5	◉ V ○ VB ○ VBC		×		×		スケッチできない細かい礫あり
5-15	2	☑ 幅10 奥行10 高さ10	◉ V ○ VB ○ VBC		×		×		スケッチできない細かい礫あり
15-30	3	☑ 幅10 奥行5　高さ15	◉ V ○ VB ○ VBC		×		×		細かい礫と少し大きめの礫あり

■ 様式A5　試料リスト

様式　A5　試料リスト

基礎情報

格子点ID	080470
都道府県	茨城県
調査年月日	20210812
調査担当機関	(株)森林環境
記入者氏名	森山太郎

・分析用試料の混合試料作成時に作成。
・試料を並べ野帳様式A4と照合し、「試料の有無」と「種類」をチェックしてリストに記入。
・リストは試料に添付して試料調整担当者に送付。
送付前に仮提出用のコピーかスキャンファイルを保存。

備考　混合試料,定体積試料中のレキは風化していてもろいので,調整時に砕き過ぎないよう注意。

化学分析用土壌試料

調査位置	深度	試料ID	採取状況
N地点	0-5cm	N11	✓
	5-15cm	N12	✓
	15-30cm	N13	Ⓒ
E地点	0-5cm	E11	—
	5-15cm	E12	—
	15-30cm	E13	—
S地点	0-5cm	S11	✓
	5-15cm	S12	✓
	15-30cm	S13	✓
W地点	0-5cm	W11	✓
	5-15cm	W12	✓
	15-30cm	W13	✓

記入方法 ✓ 試料を採取した場合
— 試料を採取していない場合
Ⓒ 定体積を兼ねる試料採取(VBC)の場合

VBCは混ぜない

化学分析用混合土壌試料 ※混ぜる前に写真撮影

深度	試料ID	混合状況			
		N地点	E地点	S地点	W地点
0-5cm	C11	✓	—	✓	✓
5-15cm	C12	✓	—	✓	✓
15-30cm	C13	—	—	✓	✓

記入方法 ✓ 混合試料に加えた場合
— 試料を混合していない場合

堆積有機物試料

調査位置	区分	試料ID	採取状況
N地点	T	NT	✓
	LFH層	NK	✓
E地点	T	ET	—
	LFH層	EK	—
S地点	T	ST	✓
	LFH層	SK	✓
W地点	T	WT	✓
	LFH層	WK	✓

記入方法 ✓ 試料を採取した場合
— 試料を採取していない場合

定体積土壌試料

調査位置	深度	試料ID	採取形態				試料サイズ		
			無し	V	VB	VBC	幅	奥行	高さ
N地点	0-5cm	N11		✓					
	5-15cm	N12		✓					
	15-30cm	N13				✓	50	10	15
E地点	0-5cm	E11	✓						
	5-15cm	E12	✓						
	15-30cm	E13	✓						
S地点	0-5cm	S11		✓					
	5-15cm	S12		✓					
	15-30cm	S13		✓					
W地点	0-5cm	W11		✓					
	5-15cm	W12		✓					
	15-30cm	W13			✓		20	10	10

試料受取日

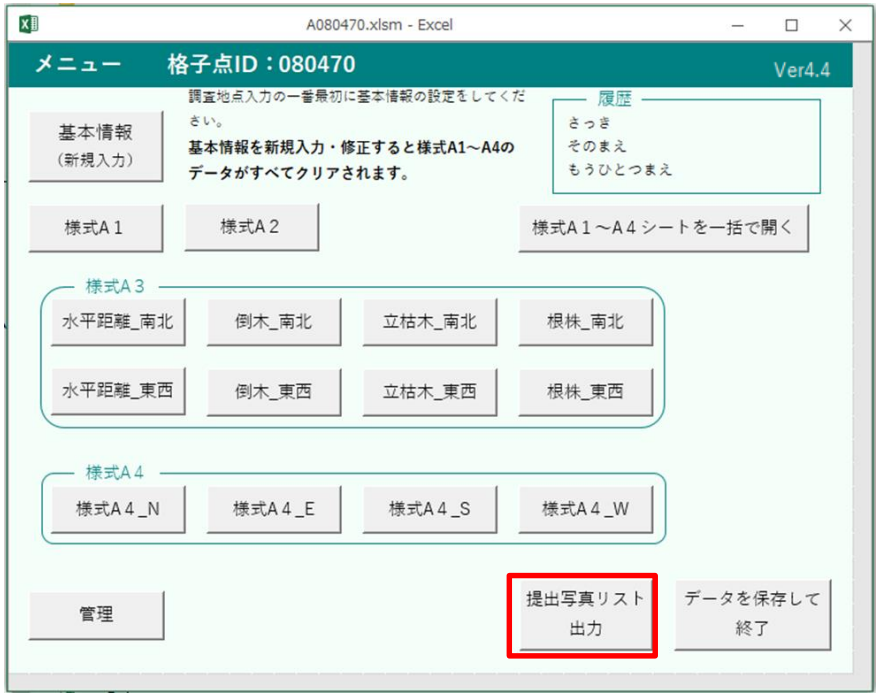
記入方法　定体積試料の採取形態に合わせて4つの欄のうちどれかに✓を付ける
「VB」か「VBC」で採取した場合は、試料サイズ欄にブロックサンプリング時のサイズをcm単位で記入する。
「V」で採取した場合と試料採取が無かった場合は、試料サイズ欄には何も記入しない。

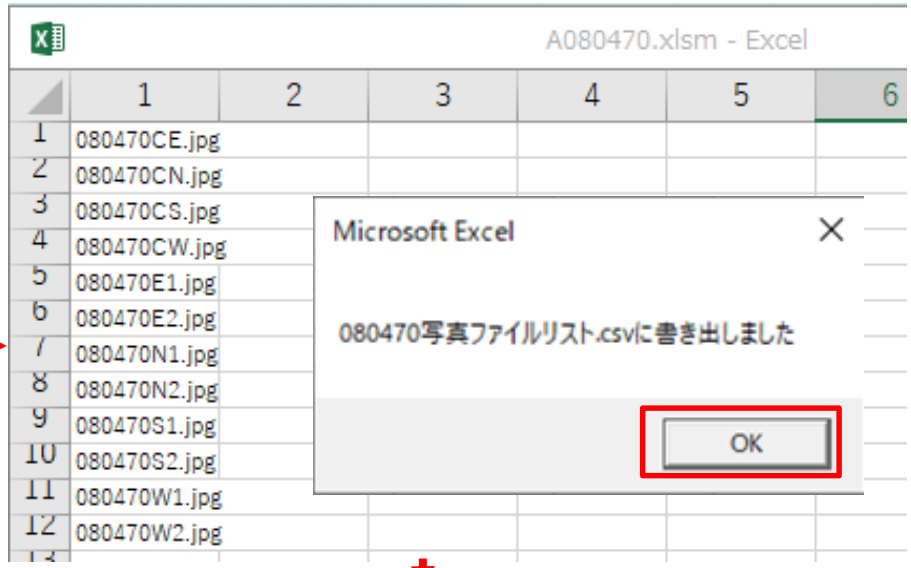
原本を試料に同封して試料調整分析担当者に送付し、手元にはコピーを残す

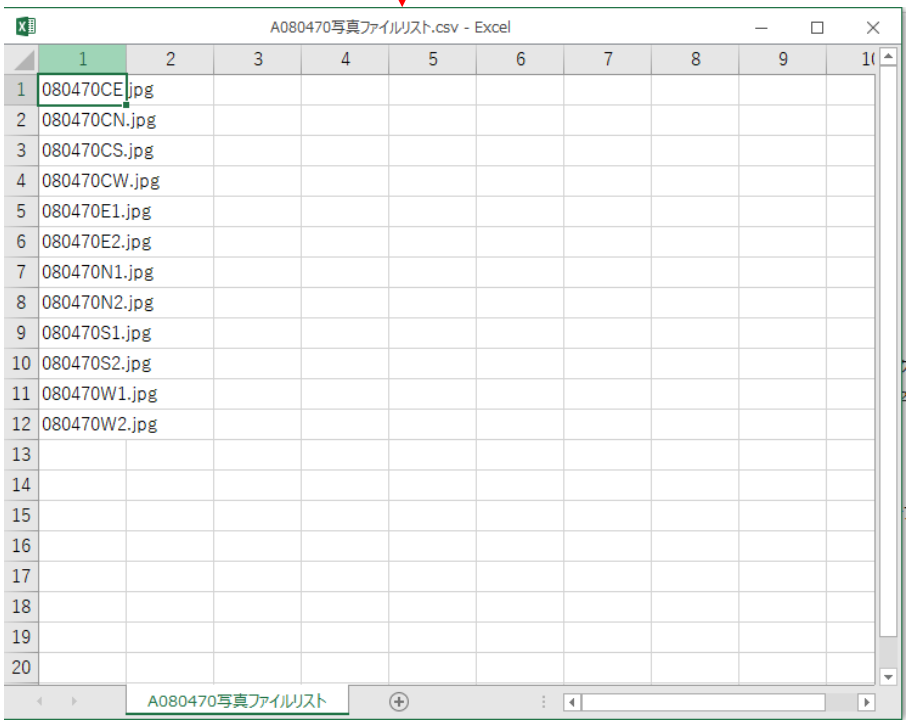
スキャンしたpdfを様式A1からA4と共に提出する

入力フォームには入力しません

■ 提出写真リスト



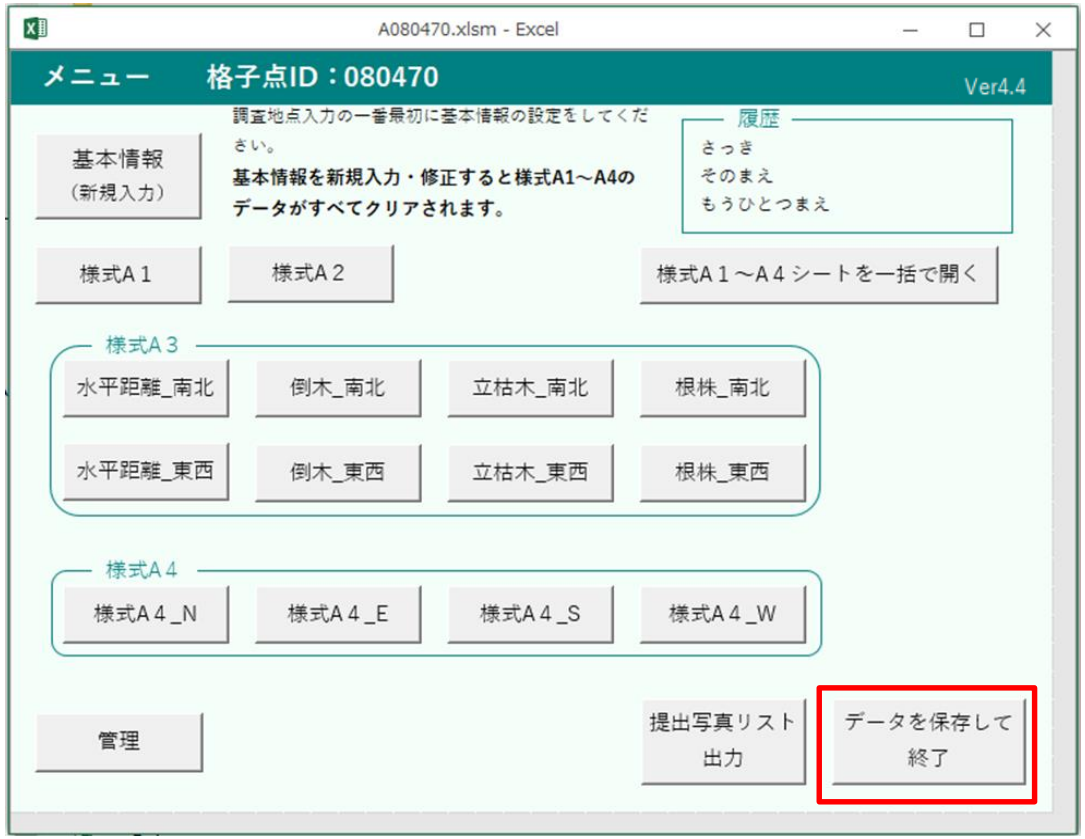




提出写真リスト出力

- A080470.xlsmと同じフォルダに「A080470写真ファイルリスト.csv」が出力される
- 必ず提出しなければならない写真名一覧が表示

■ データの保存



データが保存され入力フォームが閉じる

■ データの再利用によるデータ入力

＊基本情報のデータを再利用する場合

1. 既にデータが入力されたファイルを使用する。
2. 「基本情報」シートでIDを変更し「登録」をクリックする。
3. 調査年月日、会社名、調査担当者のデータ以外は削除される（様式A1～A4の各シートでは基本情報だけ変更され、それ以外のデータは削除される）。
4. 様式A1～A4の各シートに新しいデータを入力し、「データを保存して終了」をクリックする。

既にデータが入力されたファイルの例

＊入力内容を変更したい場合

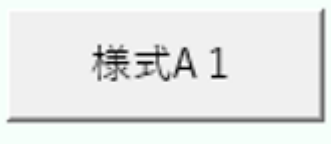
調査地、調査カテゴリ、調査担当会社
→この画面のみの入力（他の入力画面で変更不可）

調査年月日、調査担当者
→ほかの入力画面でも変更可

入力フォームの説明1

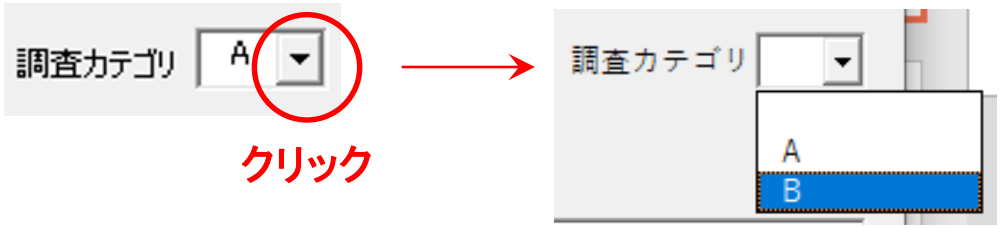
入力フォームを構成するコントロール1

コマンドボタン



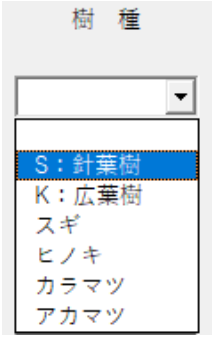
ボタンをクリックすると、入力フォームを開いたり、データを保存したりする。

コンボボックス



項目を選択する。
基本的には選択項目以外は入力不可にしてあるが、樹種のコンボボックスは選択項目以外も入力できる。

例外：樹種（倒木、立枯木、根株の入力フォームにある）



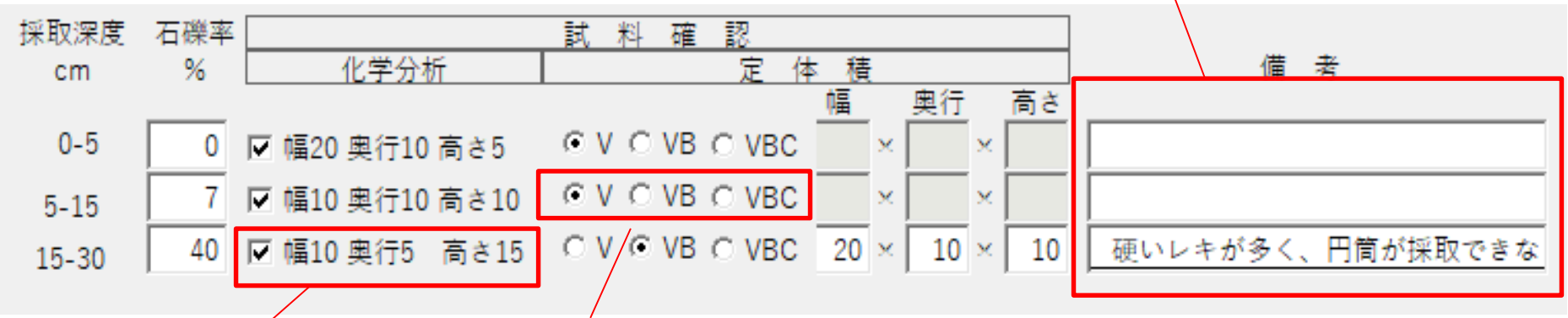
- 選択項目以外も入力可
- 他のコンボボックスとテキストボックスからコピー＆ペーストもできる

入力フォームの説明２

入力フォームを構成するコントロール２

テキストボックス

野帳データをキーボードから直接入力
Microsoft IMEを使用であれば、数値入力のテキストボックスは半角、日本語を入力のテキストボックスはひらがなを設定済み



オプションボタン

選択項目の中から一つを選択

チェックボックス

確認
空欄のチェックボックスをクリックすると、✔がつき、もう一度クリックすると、空欄に戻る

入力フォームの説明３

- コンボボックス、テキストボックス、チェックボックス、オプションボタンにデータを入力（または選択）
- コントロール移動は、マウス操作もしくはTabキー

複数のエクセルファイルを開かないでください

エラーになります

ノートパソコンで入力するときは（キーボードから手を放したくない方は）
tabキーで移動（ひとつ前のコントロールに行くときはshift + tabで戻れます）
チェックボックス、オプションボタンはスペースキーで✔がつけたり消したりできます。
コンボボックスは↓で選択を行い、Enterキーで決定できます。

IDが違うことに途中で気づいたら

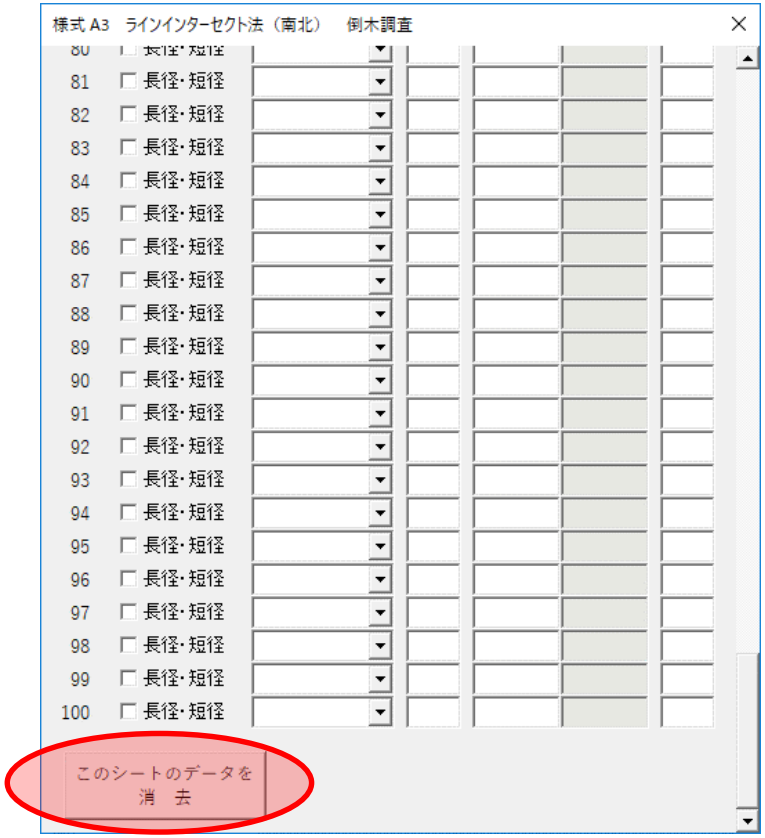
- （ファイルを閉じた状態で）ファイルを選択し、右クリック→名前の変更を選択
- A + （正しいID（6桁））を入力する。（すべて半角英数字であること）
- クリックして、ファイルを立ち上げる。

↓

データを消すことなく、IDのみ入れ替わる

データの消去方法

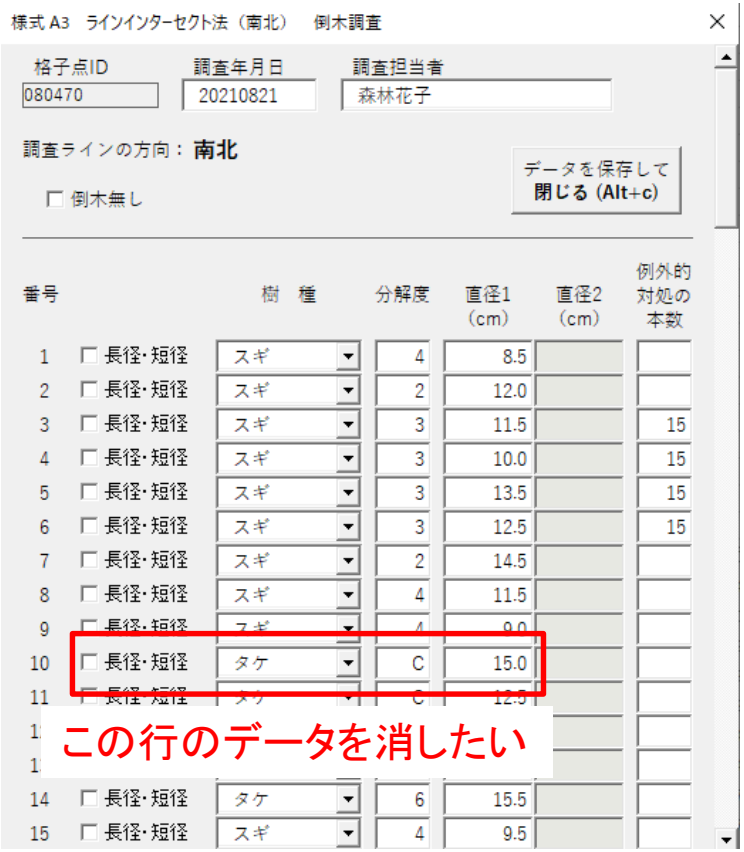
1. ユーザーシート全体のデータを消去したいとき
→各ユーザーシートの「このシートのデータを消去」ボタンをクリック



このボタンをクリック

■ データの消去方法

2.　枯死木（倒木、立枯木、根株）のデータを一行だけ消去したいとき



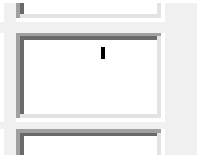
コンボボックス
樹種のコンボボックスに「'」を入力

「データを保存して閉じる」をクリックし、もう一度ユーザーフォームを立ち上げる

データの消去方法

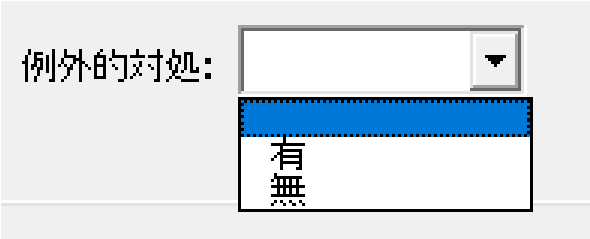
3.　一つのコントロール（テキストボックス、コンボボックス）を消去したい

テキストボックスの場合
→「’」（アポストロフィー、半角）を入力



例）A1

コンボボックスの場合
→一番上の空白を選択



野外調査データの種類

野帳データ（手書き野帳のpdf）

様式A1：調査実施状況確認票

様式A2：調査プロット見取り図

様式A3：枯死木調査票
（ラインインターセクト法・ベルト法）

様式A4：炭素蓄積量調査票

様式A5：試料リスト

手書きの野帳 → 電子データ

データ入力フォーム
（A_form46.xlsm）

データの仮提出 必要

写真データ（個々の画像ファイル）

調査地林相写真

枯死木調査工程写真

炭素蓄積量調査工程写真

分析用試料混合工程写真

本提出の印刷物作成用

写真様式作成システム
（B_photo40.xlsm）

印刷用様式
- 様式B1：調査地林相写真
- 様式B2：枯死木調査工程写真
- 様式B3：炭素蓄積量調査工程写真
- 様式B4：分析用試料混合工程写真

GPSデータ

■ 写真様式作成システム

「B_photo40.xlsm」ファイルを写真様式を作成したいIDフォルダにコピー

「B_photo40.xlsm」をクリックしてファイルを開く

■写真様式作成システム

ID(フォルダ名)	画像ファイル名	並び替え用ID	メッセージ

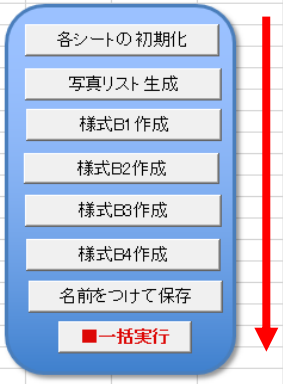
調査年月日

調査者氏名

Ver4.0

	写真枚数
B1	
B2	
B3	
B4	
命名ミス	
その他	
total	0

注1 命名ミスがある場合はファイルの名前を修正し再実行してください。
注2 その他写真は野帳に掲載されません。



- 上から順に「名前をつけて保存」までマクロボタンを実行

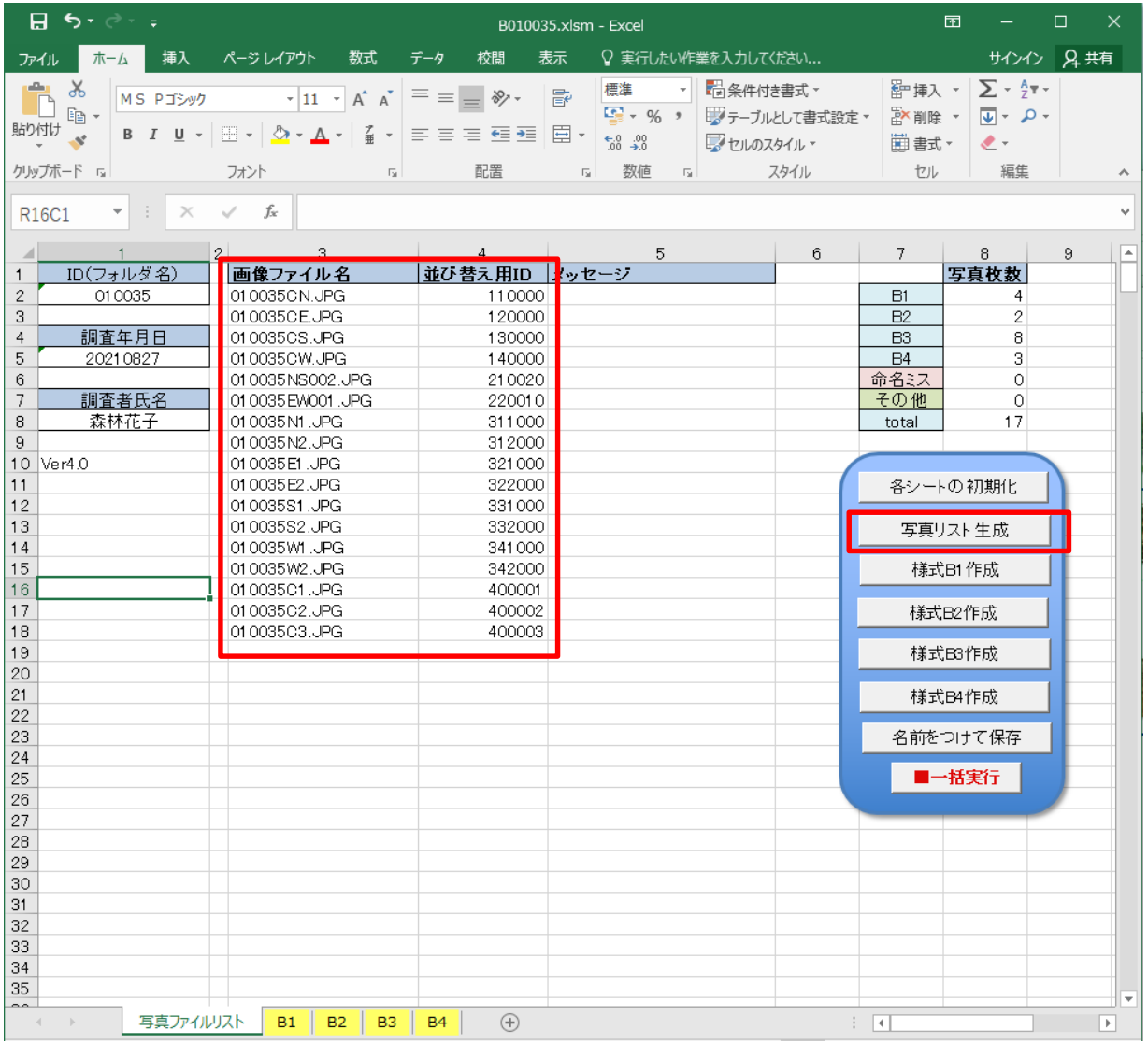
  もしくは

- 「■一括実行」を実行

写真ファイルリスト | B1 | B2 | B3 | B4

写真様式作成システム（B_photo40.xlsm）を開いた様子
「写真ファイルリスト」シート表示

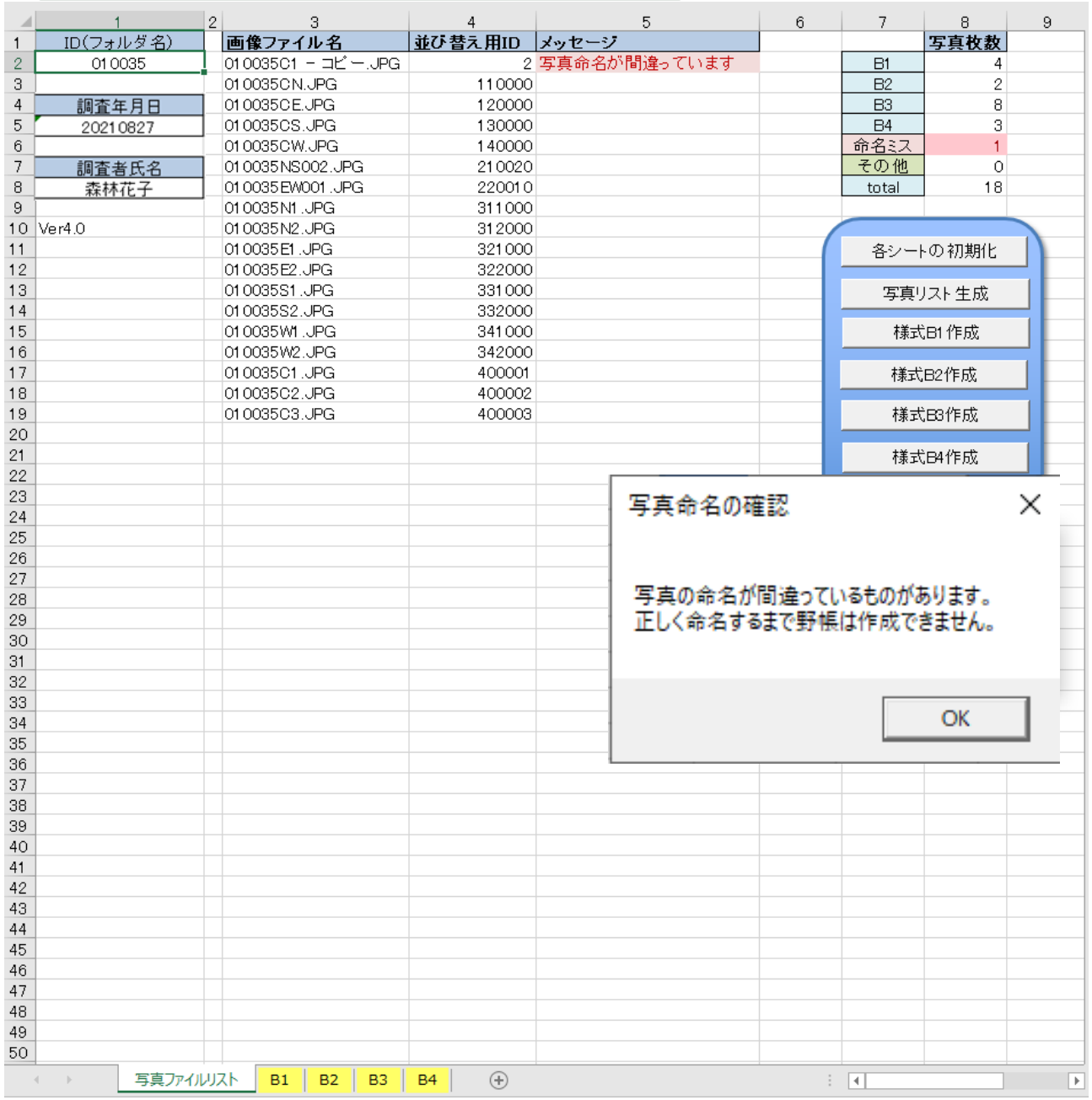
写真リスト生成



「写真リスト生成」をクリックすると画像ファイル名が表示される

その他写真は野帳に掲載されません。

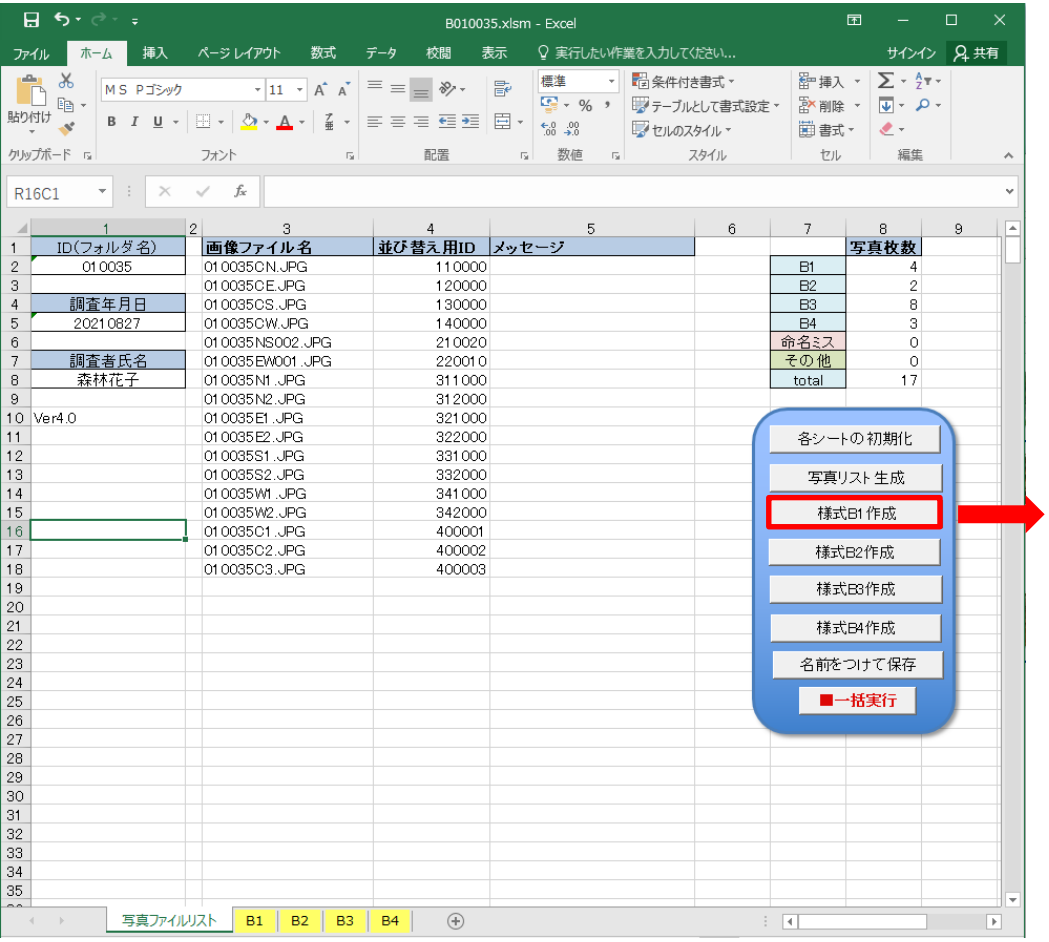
写真リスト生成



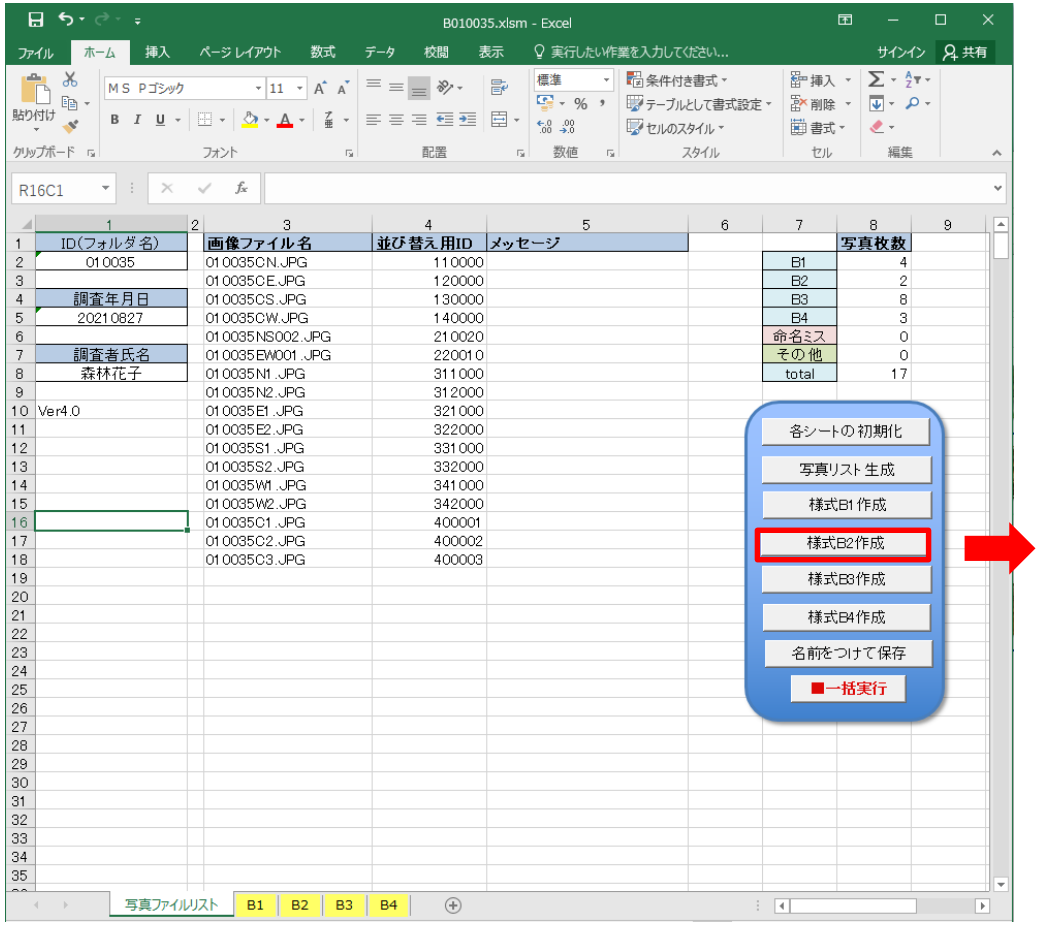
写真命名を間違えた場合

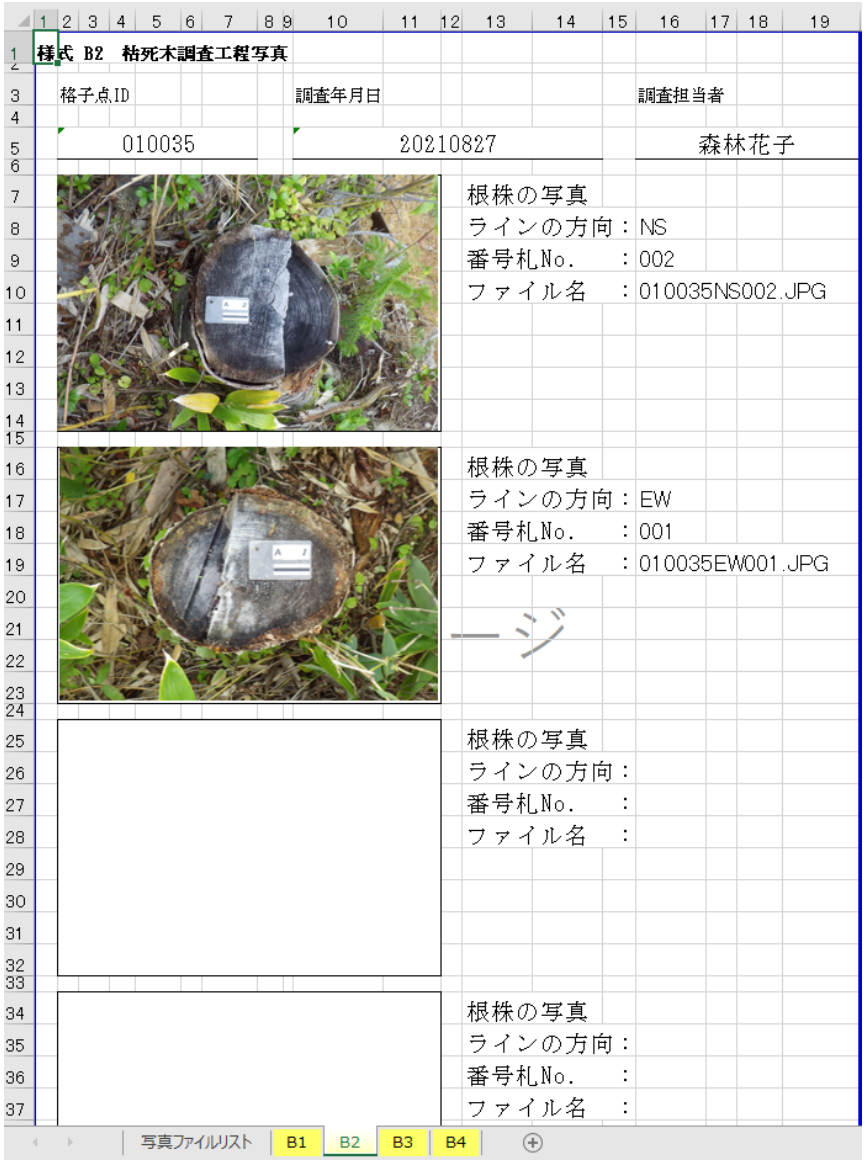
画像ファイルが入ったフォルダに戻り写真の命名を修正し再実行

■ 様式B1　調査地林相写真

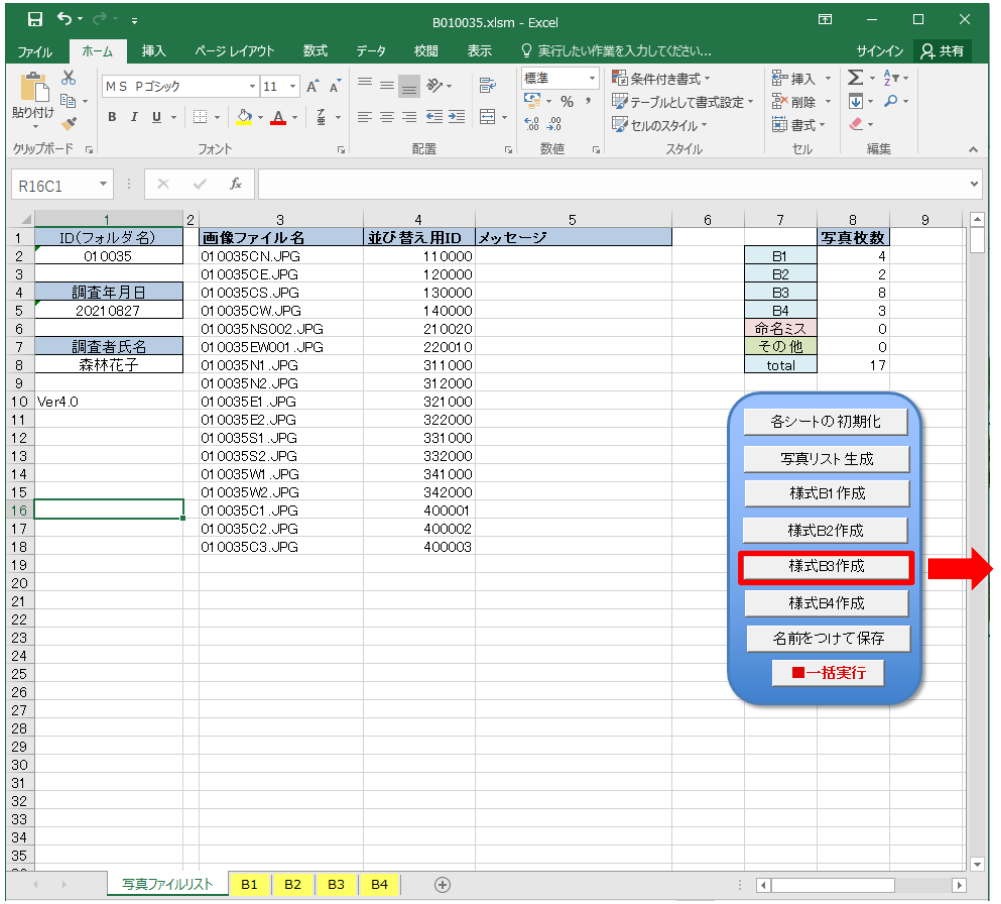


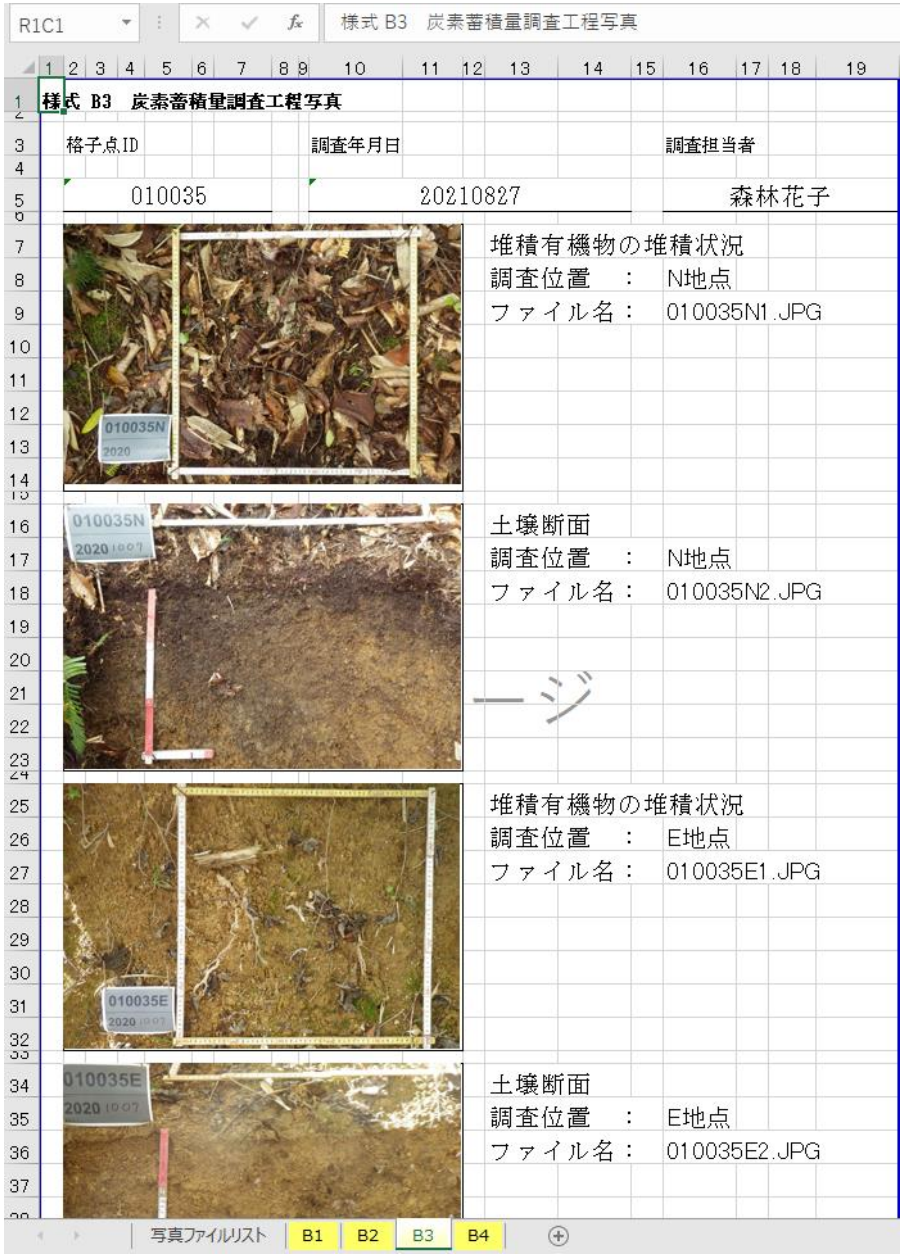
■ 様式 B2　枯死木調査工程写真



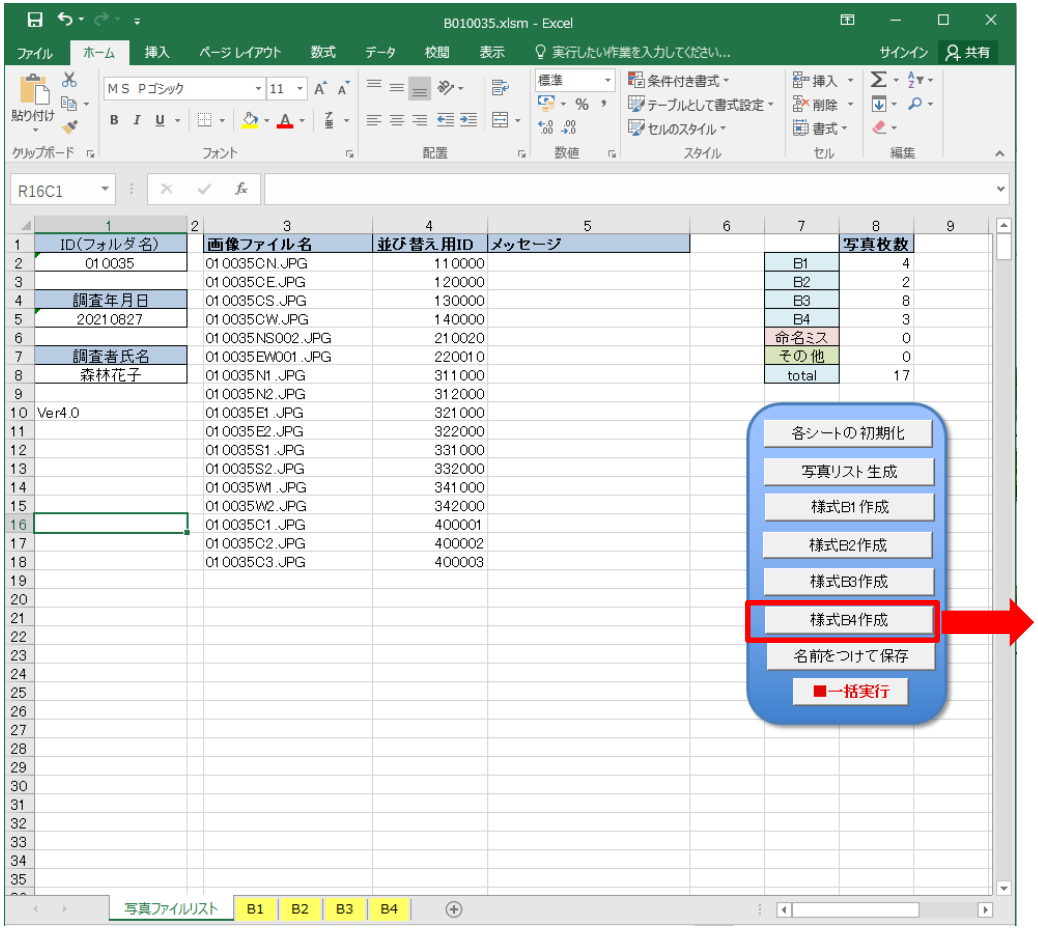


様式 B3　炭素蓄積量調査工程写真



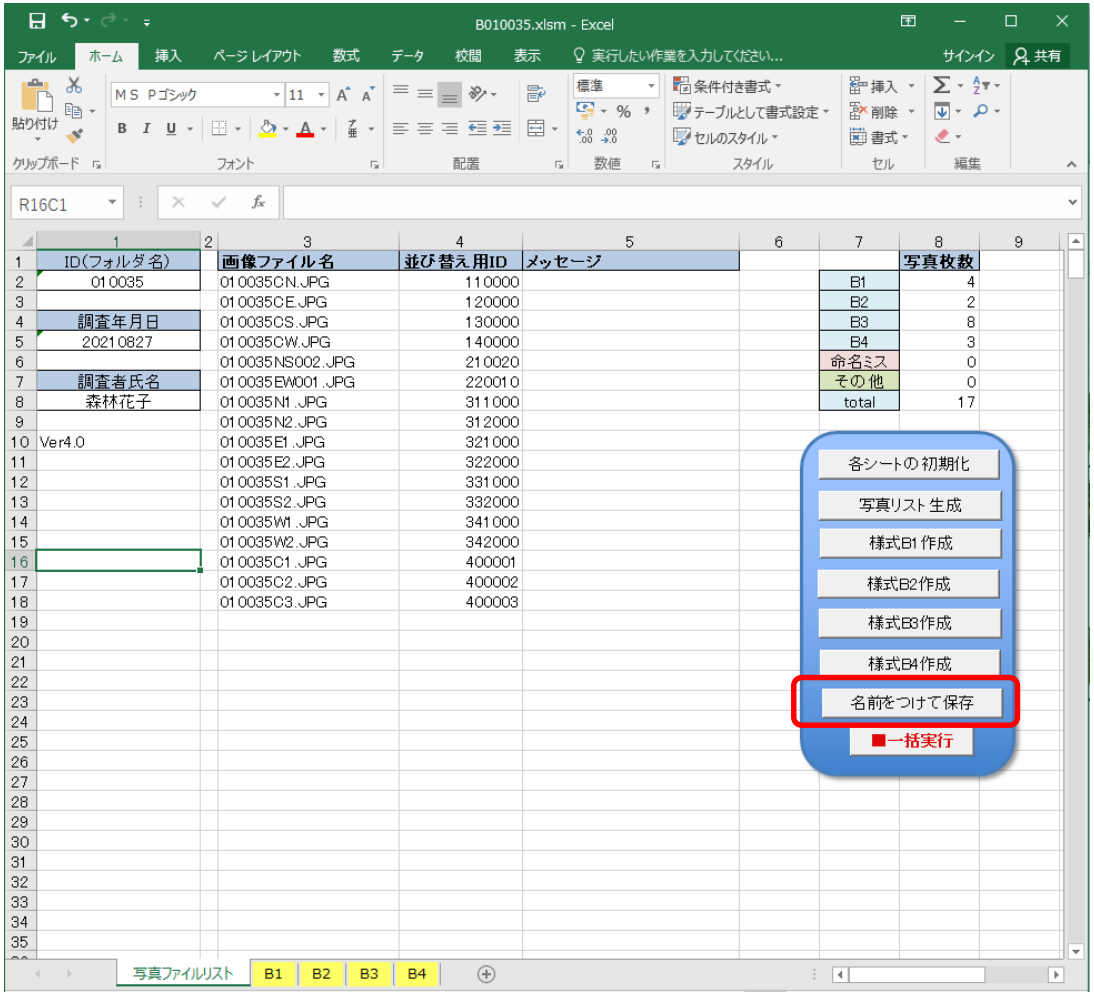


様式 B4　分析用試料混合工程写真

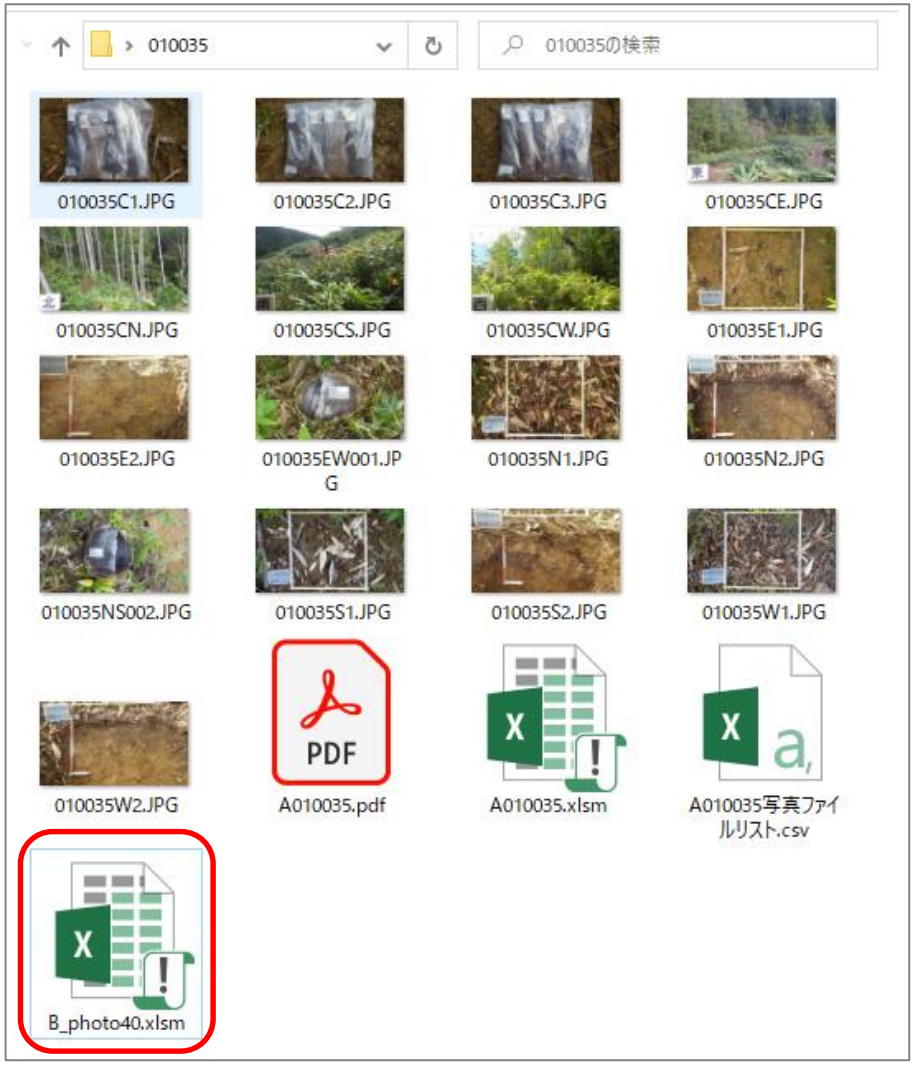


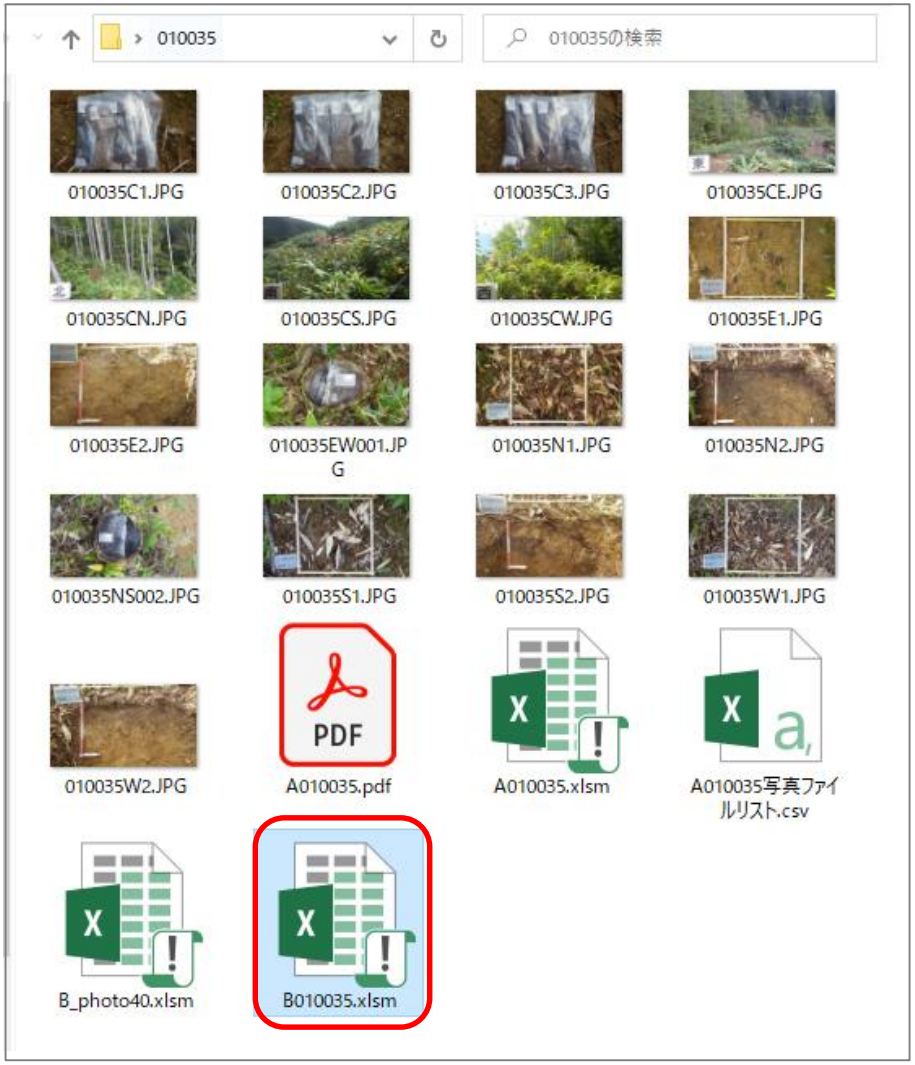
■ 写真様式作成システム

ファイル名は自動で命名される



■ フォルダ内に作成されるファイル





①B_photo40.xlsmを写真様式を作成したいIDフォルダにコピー

②ファイルを開いて、マクロ実行

③フォルダ内にBXXXXXX（ID6桁）.xlsmが作成されている

おわりに

- データの入力作業お疲れ様でした。
- 苦労して入力した大切なデータです。
- しっかりと保存しましょう。

データ入力に関する質問等は電話にて対応いたします。